

蔵前テニスクラブ 會誌

1985 19号

蔵前テニスクラブ
東京工業大学硬式庭球部

目 次

表 題	会 長 中 島 敏	
OB戦出席会員写真		3
部員写真		4
1. 会長挨拶		
会長就任のご挨拶	会 長 中 島 敏	5
2. 田治米前会長を悼む		
田治米辰雄前会長さんへの思い出	元会長 津 村 利 光	7
田治米君を悼む	昭14 野 口 朗	8
田治米さんの思い出	昭17 佐 野 治 泰	10
田治米辰雄前会長のご冥福を祈る	昭40 寺 尾 道 仁	10
田治米前会長の略歴		12
3. 寄 稿		
(楽しさと苦しさ)	元部長 牧 島 邦 夫	13
テニス上達せぬの記	前部長 染 野 檀	14
修・破・離	部 長 内 藤 喜 之	15
随 想	昭12 大 田 正 樹	16
昔とった杵柄—中高年のテニスの心得—	京 大 伊 藤 稔	17
テニスあれこれ	副会長 許 敏 信	20
テニスと私	副会長 久 保 康 夫	22
思い出すままに	昭28 村 上 裕 輔	23
テニスは冷たい恋人	昭28 森 辰 男	24
麒麟も老いては	昭29 仲 野 道 雄	26
幹事会に望むこと	昭30 平 井 満 夫	27
中国のテニス見聞記	昭35 後 藤 需 夫	28
人体の運動時の内部環境	昭45 村 上 博	31
雑 感	現3年 細 内 正 紀	33
抱 負	現2年 近 藤 和 彦	34
4. 会員便り		
急いては事を仕損ずること	昭27 本 間 進	35
卒業30年	昭30 土 谷 耕 介	36

近況報告	昭32	加藤	進	37
近況報告(昔と今)	昭33	笠井	耕一	38
近況報告	昭38	門倉	貞夫	38
近況報告	昭39	直井	啓吾	39
近況報告	昭41	川上	正博	40
近況報告	昭48	木村	茂	41
ソフトウェア・ハードウェア?	昭54	松島	晴彦	41
近況報告	昭57	田中	史明	42

5. 蔵前テニスクラブ活動報告

昭和59年度蔵前テニスクラブ総会報告	43
昭和58年度蔵前テニスクラブ会計報告	45
昭和59年度	46
蔵前テニスクラブ規約	47
昭和58・59年度OB戦出席者	49
結果	51
昭和60年度蔵前テニスクラブ行事予定	57
昭和60年度年会費納入のお願い	58

6. 現役活動報告

昭和58年度の戦績	59	
昭和59年度の戦績	63	
昭和58年度のリーグ戦を振り返って	58年度主将 牛木 純郎	67
昭和59年度のリーグ戦を振り返って	59年度主将 中井 暁夫	68
新年度に向けて	主将 小沢 浩一	70
昭和60年度活動計画	主務 細内 正紀	71

編集後記	73
------	----



昭和 5 8 年 秋 季 O B 戦



昭和 5 9 年 秋 季 O B 戦



昭和60年卒業部員



昭和60年度現役部員



会長挨拶

会長就任のご挨拶

会長 中島 敏 (昭10・電化)

1年ほど前の夜、思いがけない電話がかかってきました。まだお元気な田治米会長の落ち着いた声で、「健康に自信がなくなったので会長を引受けてほしい。許、久保両副会長にも相談をしたうえのことなので……」と、突然のこととて返事の言葉も出なかったのです。

平素ご無沙汰勝ちの私に指名されたのは、旧制高校OBインターハイに下手なプレイヤーながら73才で元気に出場していることを3氏がよく知っておられたことからのようで、そうとなれば止むを得ない。久保、許氏のご意見を伺ってから両氏の副会長ご留任を条件にして大役を引きうけさせて頂くことになったのです。

どのような会でも、責任ある役目を仰せつかるまでは組織がよく判らないのですが、蔵前テニスクラブの幹事会に出席してみて、整然とした書記、企画、会誌、会計の各幹事と年代別委員組織が整えられていて、熱心な奉仕活動が続けられていることを知らされました。当クラブのこのような発展はひとえに故田治米会長の真摯な統率のお蔭であります。

田治米辰雄氏は第二高等学校の校風そのままに、豪直かつ粘稠なテニス振りで、何か心に残る大切なものを伝えて下さる人柄でありました。そのありし日の姿を前号の36、45頁の写真に偲ぶことができます。

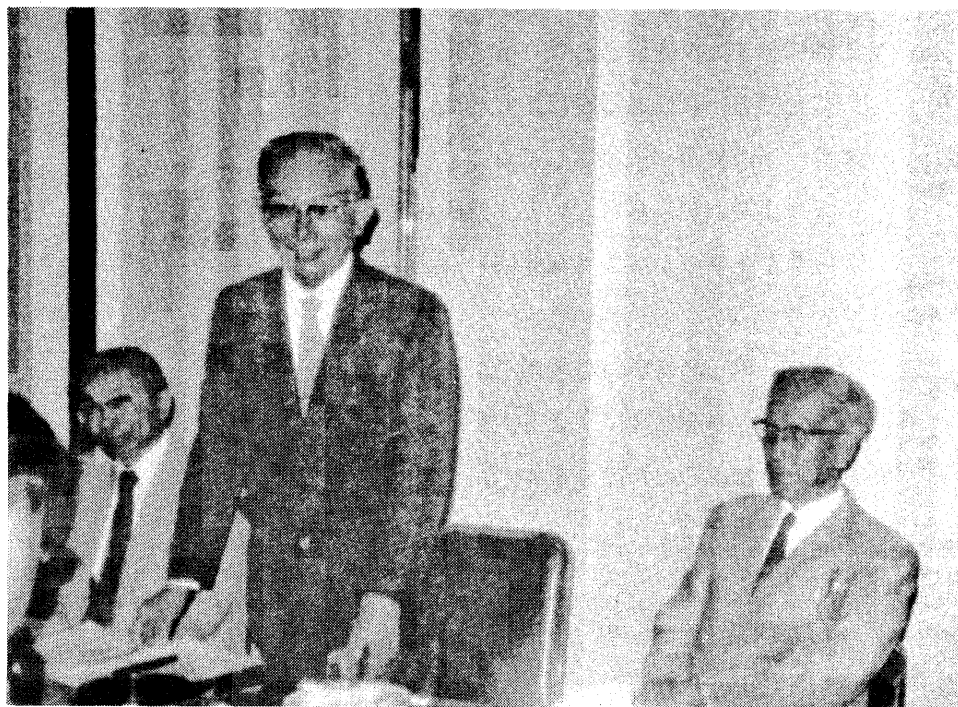
さて、私の自己紹介ですが、一番弱い姫路高等学校のNo.6で、昭和7年に電気化学科に入学したのですが、コートは2面あってもテニス部が無い時代で40年以上もラケットから離れていましたが、やっと数年前から上石神井のクラブで月に1~2回楽しむことができるようになったベテラン・ビギナーです。

昭和10年卒業後化学工学研究室に入って内田俊一先生の助手をさせて戴いてから陸軍燃料技術研究所に勤務、終戦の後に自活のため数名の仲間と小さい研究会社を始め47年の年月を経て漸く年商80億円、200名程度になったベンチャービジネスのハシリの1人です。

伝熱媒体システムや合成樹脂塗料プラントのエンジニアリング部門とアクリル系粘接着剤製造部門とがあります。また社外では化学工学協会の名誉会員として産業部門や化学プラントショーの運営に熱を上げております。

このようなことから大河内技術賞、紫綬褒賞、勲四等旭日章を拝受しましたが、これからは0.3ミクロンのポリマー超微粒子の応用開発、バイオ用の液クロ・システムの開発ならびに中国化学工場の近代化のための技術協力を旨として情熱を燃やしています。既に大連、沈陽、西安、杭州の各塗料工場の近代化に着手しており、研修生も3名参っております。中国との緊密化は蔵前工業の伝統です。

会友皆様のご発展と蔵前テニスクラブの充実を願って止みません。どうかご支援下さい。



昭和59年6月10日 総会にて中島新会長の挨拶
(向って右は田治米前会長)

こ
テム
てい
生も
下

田治米前会長を悼む



田治米辰雄前会長さんへの思い出

元部長・元会長 津村 利光 (大8・機械)

田治米さんを知ったのは、戦争がはじまって日本がまだ調子のよい昭和17年の4月頃と思う、私は3月に東京工業大学に勤めるようになって、山田良之助さんのおすゝめで庭球部長になったときの頃と思う。田治米さんは当時副手をしておられたが、何分にもテニスがポツポツ出来なくなるときであったから、コートでお会いすることがなかった。やがてテニス部が消えて、さらにコートが芋畑になったのだが、田治米さんは既に都立大学に移られて本職の方で活躍されていた。そんな事で可なり長い時の経過後、彼氏と私とが神奈川大学で再び顔をあわすことになった。地震に対する建築工学の大家であった彼と材料力学をやっている私との間には、多少のつながりがあるはずなのだが、お互に余り社交的でないので年がすぎた。宮城県沖地震で石油タンクが壊れたので彼との間に細い糸が繋がった。彼が神奈川大学庭球部長になり、富士の裾野に合宿したりして糸が段々太くなった。彼のテニスはジタバタ走りまわらないで、静かに確実にボールを敵の居ないところに打っていたから、頭の方は相当に早く動いて常に適切な位置に動いていたのだろう。

話は変わるが私は前に蔵前庭球会の会長に押しあげられていたが無能力さが表われて会を冬眠状態に氷結させてしまった。そのとき救世主として寺尾道仁君が出てこられて庭球会を活動さすよう発案され、そのリーダーとして田治米さんを推せんされた。私は一も二もなく賛成して蔵前庭球会の総会を久びさ開いて満場一致して田治米さんを会長に推せんした。彼の会長になるや、会は冬眠から覚めて活動をはじめた。そして楽しく健康的に集いが持たれるようになった。

好事魔多しというが、昨年春、田治米さんは福島県の旅行先で病気にかゝられた。生来のご健康体だから間もなく快癒されたのであったが、秋になって他界された。会としても、私は友としても、本当に残念でならない。しかしOBの会が開かれる度に彼に対する追憶の話はつきない。今後もつきないことと思う。

田治米君を悼む

野口 朗（昭14・電化）

新聞紙上で田治米君の訃報を知って驚いた。と同時に大変淋しく感じた。私の高校、大学を通じて、ダブルスのペアを組んだ人々の最後の一人を失って了ったからである。戦没者、行方不明者、病没者の多い内で、たった一人残っていたパートナーであった。

田治米君と私の最初の出会いは、私の高校一年の春であった。盛岡の高等農林のコートで東北ゾーンのトーナメントが行われた。私は山形の高校に入学したばかりであった。その第1回戦のシングルスで当時第二高校（仙台）の2年生であった田治米君と当たったのである。私は当時グリップをウェスタンから、イースタンに変えたばかりで至極簡単に敗けて了った。その時の田治米君の印象は、大そう強いフォアのストロークを持った人だという事であった。それ以後彼は第二高のナンバーワンのペアとして、田隅・田治米組として有名になった。「タスマ・タジメ」というので審判のアナウンスがややこしく困った記憶がある。

当時のインターハイは、東北ゾーンとして、北大予科、弘前、山形、二高、水戸で争われた。ナンバー2のペアであった私はインターハイでも、トーナメントでも不思議と田治米君とは当らなかつた。田治米君は厚いフォアのベースラインプレーヤーであり、田隅君はめずらしく、コンチネンタルグリップで強いサービスで知られ、東北大学のNo.1、二高のNo.1、山形のNo.1が常に三つ巴で優勝を争っていた。

昭和11年私が工大の電化に入って驚いた。3年に田隅君、同年に田治米君、1年上に中島氏（速浪高）が共に建築科に居た。その他に田沼君（府立高）が窯業、植田君（早稲田）が応化の1年にいるではないか。期せずして、相当なプレーヤーが6名揃った事になった。前年迄は、工大庭球部はあって無きが如き状態であったが、これで非常に強いチームを組む事が出来た。私は一年間田隅君とペアを組み、彼が卒業すると同時に、田治米君とペアを組んだ。私等の組は試合に敗けた事は一度も無かつた。只残念な事には、昭和12年に支那事変が始まって、次第にテニスどころではなくなり、ボールの配給も手に入らなくなった。

併し私等が2年の時に、千葉医大と定期戦をやったのを覚えている。田治米君がNo.2のシングルスで相手と大接戦をやり、セットオールでスタミナが切れて負けて了っ

校、
あ
あ
コ
あ
君
の
。
。
。
た。工大の失点はその1点だけだった。私は敵にそんな強い選手が居るとは思っていなかった。その相手はその翌年、学生新人トーナメントで優勝しているから、如何に田治米君が強かったかがわかるというものだ。

その後は彼も学業が忙しく、共に練習も出来なくなったが、時には私と乱打しているのを私の友人（余りテニスを知らない）が見て「お前と打っていたのは誰だ、とても綺麗なフォーム」と言ってほめていた。実に、球ばなれがよく、切れ味の良いテニスであった。私はバックが強く、彼はフォアのクロスがよいので、私がレフトで、彼がライトであった。

彼は暇をみて私の家に遊びに来てピアノを弾いた。ランゲの「フラワーソング」等であった。絵は勿論建築の正科であるから、画いていたのだろう。器用な人であった。面白い事に、田隅君と田沼君は共に三味線の名手で、田沼君は三越ホールで公演したり、田隅君も博多でドンタクの先導する等、テニスとは奇妙なとり合せであった。

田治米君は静かな、学究的な人柄で教授向きだったと思う。終戦後私が九州の工場から滋賀県に移り、時々は上京するようになった。当時は工大のコートは本館の右の低地から、本館前に移され、デビスカップの宮城選手の父君（蔵前出）が時にはアドバイスをしていられたようだ。併し既に高年でもあり、田治米君に連絡をして、一諸にコーチをしようと云ったのだが、当時彼は胸を悪くして、養生中との事で中止した。さて私が東京に赴任して来てから、今度は彼から一諸にコーチをやらぬかと云って来たが、こちらが既に体調を損ってどうもチグハグになって了った。

彼がこんなに早くなくなるとは思ってもいなかった。実に残念である。御葬式にも私の体の都合で、家内に代理をさせる始末であった。こんなことなら家も比較的近く（妙蓮寺と日吉）であったから、もっと会っておけばよかったとつくづく悔まれてならない。

心から御冥福を祈ります。

合 掌

田治米さんの思い出

佐野 治泰（昭17・電工）

私達が入学した昭和15年には、田治米さんは既に卒業して建築学科の助手として勤務しておられました。当時の工大は学生数が少なく、テニスコート2面に集まるメンバーも不足することが度々でした。そんな折には、田治米さんを研究室から引っぱり出しに行ったものです。

田治米さんは、あの長身をやや猫背にしながら温顔に微笑をたたえ、われわれの誘いに心よく応じていただきました。

田治米さんのプレー振りはOB戦を御覧になってよく御承知と思いますが、其頃はまだ若々しく、ボールを横から引っぱたくような強烈なストロークで、われわれは振り廻されてフーフー言ったものです。

昨年、春頃か、あるいは一昨年でしたか、横浜桜木町駅を出て弁天橋を渡ろうとするとき、田治米さんらしい方とすれ違い、声をかけようと躊躇して結局其儘になってしまった記憶があります。後で考えてみれば、田治米さんは、其頃は神奈川大学に勤められていたので、桜木町でお目に掛っても不思議ではなかったのです。

あるいは、これが田治米さんの見納めであったのかも知れません。

田治米辰雄前会長のご冥福を祈る

寺尾 道仁（昭40・建築）

田治米辰雄前会長が昭和59年12月23日午後零時2分、大腸シュウヨウのため、東京都新宿区の東京女子医大附属病院で逝去された。告別式（喪主は妻、かね様、横浜市港北区篠原台町13の3）は同26日正午から横浜市港北区菊名の妙蓮寺で営まれた。蔵前テニスクラブとしては、中島会長、許、久保、両副会長、細萱、寺尾、増山、内山、沢野、鶴田、元現幹事などが参列した。

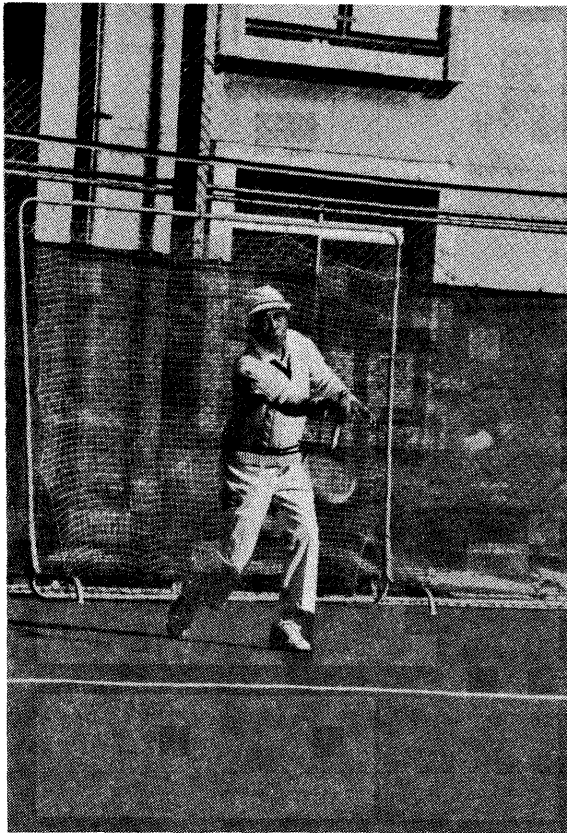
田治米辰雄前会長は、私にとって大学およびテニス部の大先輩であるばかりでなく同じ建築学研究分野における大先達（とくに地震工学の権威）で、細かい専門の違いはあるものの、人生の範とすべき存在であった。先生とは、はからずも神奈川大学に

同時に勤める幸運に恵まれ、それからは研究室が近いこともあって、事あるごとにお邪魔しては直接ご教示を受け、計測機器をお貸しいただいたり、ご自宅にお招き頂きご馳走になったり、そのおおらかなお人柄に甘えて、公私にわたってとにかくお世話になるばかりであった。それにたいして何も報いることができないうちに先立ってしまわれたことが残念でならない。

先生は、すべての雑務から解放され、思う存分研究を深め、テニスが楽しめる大学定年後の生活を夢見ておられた。ところが、それを目前にした昭和58年4月調査研究出張先の福島で心筋梗塞に倒れられ、以来、ラケットを持ってコートに立たれるお姿をついに拝見することができなかった。心筋梗塞のほうはその後次第に回復され、昭和59年5月の総会に出席され、後任会長の人選にもお骨折りいただけるまでになった先生には、この昭和59年3月でご定年を迎えられたため、非常勤で出校され、ごくたまに立ち寄られる折にお目にかかる程度になった。そんなときにも今度のOB戦には天気がよければ顔だけでも出したいとか、また、もうしばらくでテニスができそうだとか嬉しそうに仰っておられすっかり安心しきっていた。

その昭和59年11月のOB戦にはとうとうお姿を見るができなかった。しかし、天気がはっきりしないし大事を取られたまでのことだろうぐらいに考え、その僅か1月後に急逝されようとは思ってもよらないことであった。今から思えば、後任人事や大学院委員長引き継ぎなどの定年に伴う激務に引き続き、それまでもそうであったように、万難を排してこのクラブ会長としての勤めを果そうとした先生のきちょうめんなお人柄が寿命を縮められたように思われてしかたがない。

先生のこのテニスクラブの発展へのご努力を無駄にしないように会員が今後とも協力しあうとともに、先生のこの世に果せなかった、かの夢をあの手で達せられますよう、慎んでご冥福をお祈り申し上げます。



昭56. 1. 4

白楽テニスクラブにて

田治米辰雄前会長の略歴

大正	2年	4月12日	兵庫県にて誕生
昭和	9年	3月	第二高等学校 理科甲類 卒業
昭和	14年	3月	東京工業大学 建築学科 卒業
昭和	14年	4月	東京工業大学 副手
昭和	14年	12月	東京工業大学 助手
昭和	19年	8月	仙台工業専門学校 教授
昭和	23年	10月	都立工業専門学校 教授
昭和	24年	4月	東京都立大学 助教授
昭和	33年	11月	工学博士 (東京工業大学)
昭和	34年	4月	東京都立大学 教授
昭和	52年	3月	東京都立大学 教授 定年退職
昭和	52年	4月	東京都立大学 名誉教授
昭和	52年	4月	神奈川大学 教授
昭和	59年	3月	神奈川大学 教授 定年退職
昭和	59年	4月	神奈川大学 非常勤講師
昭和	59年	12月23日	東京都新宿区 東京女子医大附属病院にて逝去

寄稿

楽しさと苦しさ

元部長 牧島 邦夫 (昭15・紡)

小生岐阜大学を停年退職してから6年、ここ岐阜市の西北の田舎町に住んでおります。妻と2人の生活です。大学にいる間(工大も含めて)テニスに熱中し、これでは困ると思ひ停年後勉強を初め、今年末で3冊目の著書ができることとなります。それもテニスによる健康の賜物であり、テニスによる不勉強の反動のお陰です。

現在は当郡のテニス協会長というのが唯一の公職(?)です。3年ばかり町の教育委員長というのをやらされたのですが、あまりのバカバカしさにやめました。来年からは地質学の勉強を初めます(これでも日本地質学会及び古生物学会の会員です)。といつてもこれは永年の小生の懸案で、この勉強は死ぬまでつづけるつもりです。目下岩石の熱力学的研究に熱中しています。

工大のテニス部は小生が部長をしていたときが戦後の黄金時代のように思ひ(実はそうでなかったかもしれませんが)いまでも一人で悦に入っております。田園クラブでテニスをしていたら、有名なデ杯選手の宮城氏のお父さん(蔵前の卒業生)に“部長がこんなところでテニスを遊んでいてはだめだ”といわれてそのまゝ脱会したことがありました。テニスコート(今の図書館の場所、6面)にいたら、新入生に体育の先生と間違えられた位熱中したものです。当時の主将、選手の顔はもうすっかり変わっていると思ひますが、名簿でみる名前と、その当時の若い顔ははっきり結びつきます。当時の主将だった角田、山中、原田、伴野、渡辺、矢敷、小泉、神武、久保、増山の諸氏の顔はなつかしい。

若いテニス部員に申し上げたいことがひとつあります。楽しさと苦しみとは紙の裏表のようなもので、片方だけは存在しないということです。テニスの楽しさは苦しさがあってこそ存在するものです。生れつきの上手下手はありますが、それは大したことでない。テニスを初めた人は、自分で工夫して、自分のテニスを作りあげること。もちろん他人のプレーを見て、先輩の意見を入れ、本も読み、それによって自分のプレーをつくり上げること。こう書くともうその人の人生そのものに近いものであることがわかると思ひます。そうするためには苦しまなければ目的は達せられない。到達できる目的の高さはそのときの苦しみに比例するものと考えて下さい。年寄の説教めいてきましたが、お許し下さい。 健闘を祈ります。

テニス上達せぬの記

前部長 染野 檀 (昭19・金属)

生れ故郷の九州中津(福沢諭吉で有名になった)を振り出しに、東京を離れてからうまい米と酒を求めて流浪の旅を続けています。新潟県長岡に2年、ここ山形県鶴岡はもう3年になります。

長岡技科大では、コートが宿舎のそばにあり、機械系の助教授連中と早朝テニスを楽しました。(楽しただけで、テニスの上達とは別)。鶴岡でも、それを期待しましたが一寸無理です。硬式テニスは日本中どこでも盛んだと思っていましたが、ここ鶴岡ではテニスといえば軟式テニスです。鶴岡公園にはコート6面ありますが、もっぱら軟式テニス! 硬式は数年前から一部注目されだしたばかりです。陸の孤島といわれる程、情報も流行も遅い所です。

高専には硬式、軟式のクレイコートが夫々2面あります。日本海側は雨が多く、長岡技科大の経験から全天候型コートの整備の要求を文部省に提出しようと思いましたがグラウンド部分が、20年前の学校創立の時、沼地を埋めて整地したため、年々地盤沈下が激しく駄目だといわれてがっかりしています。

兎に角、雨が多い! 体育館で一寸やる位では運動になりません。早朝のジョギングと冬には宿舎の除雪が唯一の運動。これでは太るわけで、年寄りの肥えるのは不吉の前兆と、3年前から、一度も握ったことのないスキーを始めました。骨を折っては仕事に差支えるし、第一“年寄りが”とひやかされてはしゃくではありますが、背に腹はかえられません。幸にして鶴岡は羽黒山・湯殿山・月山 出羽三山の玄関口。教室の窓越しに右に月山、左に鳥海山の雄姿が眺まれる所。羽黒山、湯殿山のスキー場も数年前開設されたばかり、そして自動車で30~40分の距離です。毎年1~2月、2年生が研修と称して一泊のスキー訓練を行っています。初めての学生もいますので、これに便乗してのスキー訓練。第1年目は転ぶ練習。2年目から亡って、そして転ぶ練習。一冬2~3回、まだ足は折れず大丈夫です。

以上が、最近テニスの腕前の方が、どうもまゝならぬ言訳。うまくならぬ証拠が一つ。東工大停年退官の時、戴いて秘密兵器にしていた Large Racket! そのガットが5年間に一度も切れない。新素材? のナイロンガットのせいとばかり言えないので困っています。年に1度位はガットの張り直しもしたいなどと思う此の頃です。

学校から自動車で30分位の、庄内いこの村に全天候型のコートが3面あり学校の職員が予約してくれます。4月から使用出来るそうで、2週間に1度位は半日テニスを楽しみたいと思います。

時々東京に出張で来ました折、ひまをみては田園クラブで半日を楽しんでいます。そこで津村先生にお逢いする度に、先生の年令とファイトを目標に頑張りたいと思いを新にしています。

末筆ながら、蔵前テニスクラブの皆様方の益々の御活躍を祈り上げます。

修・破・離

部長 内藤 喜之(昭36・電子)

蔵前テニスクラブからは東工大硬式テニス部に対していつも多大な御支援をいただいておりますが、ありがたく感謝申し上げます。部員一同も、そのことを肝に銘じて努力いたしておりますが、いまひとつ成果が上らない状況にあります。

今後ともひきつづきよろしく願いいたします。本年昭和60年の入学式は大岡山の桜が満開のときに行われました。新しい部員の参加のもとに本年度の活動もはじまるところです。

18号の会誌で松原テニスのエッセンスについてふれましたが、学生諸君にはまだその実行はむづかしいと思われれます。そこで今回は学生諸君が毎月もらっている“クロニクル”(学内定期刊行物)の中に松田学長が書いていた文章の言葉が学問だけでなく、テニスにもあてはまるのだということを指摘しておきます。No.177、および178の中に記載されております言葉で修、破、離というものです。

修学……先人の教えに忠実に従う

破学……先人の教えの殻を破る

離学……先人の教えから離れて独自の境地に至る

大学の制度内では、それぞれが学部、修士、博士の課程に対応するでしょう。

テニス部内においては1年と2年の前半が修、2年の後半が破、3年が離の時期に対応すると考えられます。そのような意識をもって、それぞれの時期に努力すれば、何

も考えずに漠然とテニスを行うのとくらべて、格段のちがいが出てくるでしょう。

本年度はこの辺のところを期待しておきます。限られたすくない時間内で、いかに上手になるかということを考えながら、種々工夫してほしいものです。

随 想

大田 正樹 (昭12・染色)

私はいわゆる「なんでも屋」で若い頃から趣味でもスポーツでも実際いろいろなものに手を出してきた。ところがどれも正式に習ったものはなく、全くの自己流で、経歴は長くても一人前の腕前と云えるものは皆無に近い。工大在学中はコーラス部員のほか、山歩き、水泳やスキーに夢中になっていた。卒業後武田に入ってはじめて硬式テニスをやり、仕事が終わると研究所のうらのコートでテニスを楽しんだが打ち方を習ったこともなく、全くの自己流で一向に上達しなかった。昭和17年に東工大へもどり、有機化学教室の助手になったが、以後10年間は山歩きやスキーが主であった。昭和26年頃からテニス部員が卒論で私の研究室に入りはじめ、以来急にテニスに夢中になり、暇をみては学生とテニスを楽しむことが多くなり、テニス部員と接する機会も多くなった。また津村先生ははじめテニスの好きな職員方のテニスに仲間入りをすることも多くなり、本館前のコートで昼休みにテニスを楽しんだが、勤務時間中は本館前のコートでは出来ないので学生を誘い出して目立たない下の運動場のコートでこっそりテニスをすることも多かった。また私の研密室出身で富士フィルムに入社している方が多かったので津村先生、牧島先生ははじめテニス好きの職員大勢で足柄研究所へ遠征し、泊りがけで研究所員と親善試合を楽しむことも何度かあった。また官公庁対抗のテニスにも何度か参加した。東工大退官後、日立の茨城大学工学部で5年間を過したが助教授の田中先生(工大出身)はテニスが上手で、その上テニスが好きな職員が多かったので、昼休みはほとんどテニスを楽しんだ。かように私のテニス歴はかなり長く、相当上達しているはずなのに、未だにサーブもヴォレーも初心者同様に全くだめである。その理由はと云えば、はじめにのべたように正式に基礎を習わないで自己流にやってきたからである。何事によらず先生や先輩から正しく習うことが大切である。今

まで人に教える立場にあった自分として全くお恥しい次第で現在、スポーツではないが七十の手習いで好きな音楽を先生について習っているが、やはり結果は非常によい。テニスこれから習うのは体力的に無理なので、せいぜい楽しむことを目的にやって行きたいと思っております。

昔とった杵柄

—中高年者のテニスの心得—

京大庭球部長 伊藤 稔

深目のロブを追って後退して、ジャンプ・スマッシュを打った途端に「ピリッ」と右脚のふくらはぎに痛みが走った。昨年暮の大学教職員トーナメントの準決勝の試合である。しばらく脚をもんでもらって試合再開、ゲームカウント4-4まで我慢したがその後がいけない。横に走ってバックボレーを決めた時に両脚に痙攣がきて、立ってなくなってしまってとうとう棄権。パートナーに「すまない」と謝りながら、本席に飾ってある大きなトロフィーが目のはしにちらついた。

調子は決して悪くはなかったのだが、1日に3~4試合（もっとも1セットゲームだが）の強行スケジュールと、昨夜雨が降っていたので、多分中止になるだろうとつい遅くまで原稿書きに追われて睡眠不足だったことが悔やまれる。「寒いんだからお年寄りは無理をしないことですな。」という同僚の慰めにうなずいてコートを去ったが、その後3、4日間は階段の昇降にも不自由をしたのには我ながら驚いた。

中高年のスポーツへの参加が最近めっきり増えており、故障者の数もぐんと多くなったといわれている。その中でも、昔一応名を売った選手の事故が最近では増加しているそうである。

かつてのロスアンゼルス・オリンピックの三段とびの覇者南部忠平氏（現・鳥取女子短期大学々長）は、郷里北海道の小学校で模範演技中にアキレス腱を切られた事があるそうだが、往年の名選手も、現役を退いて何年か経ってから急に運動した場合にこういう事故に遭遇するケースが多いようである。

しばらくテニスの練習を休んだ後に心配しながらコートに出て、案外の馬鹿当りに

喜んだ経験を持つ人は多いだろうが、神経系は以前の感覚を正確に覚えているし、筋肉も適当な休養のおかげで初めのうちはうまく働くためであろう。もっともこんな時にはなるべく早く切りあげることだ。調子にのって長くやっていると疲労と共にボロが出てくるし、へたをすると事故を起しかねないからだ。

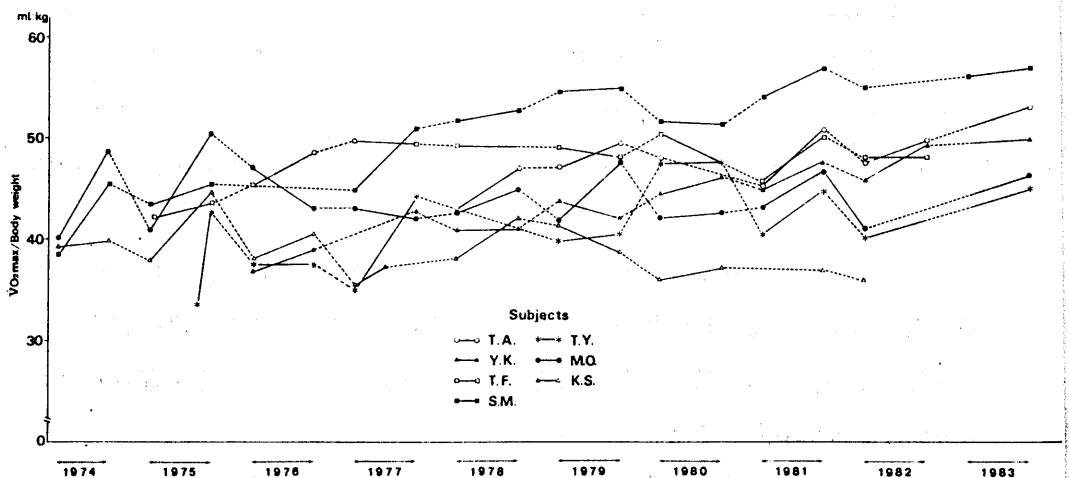
前にのべた南部氏の例は、大脳からの命令は脚筋に正確に伝えられ、筋肉もせいぜい収縮を起したのだが、筋肉と骨を結びつけている腱の部分がこれに耐えられず切れてしまったと解釈することができる。

動物の運動器管（筋肉、骨、腱等）は案外退化し易く、2、3カ月も使用しないとすぐにやせて細くなってしまふものである。病院に入院して病床に臥っていると、みるかげもなく脚がやせ細っているのにびっくりした人もいるであろう。筋肉は日常生活で必要とされる最大筋力の2.5倍程度の余裕を残して、それ以上の余分な筋肉は必要なしとして落してゆくのが自然の摂理である。

逆に言えば、トレーニング等で始終強い力を出していれば、その最大力の2～3倍の筋肉がついてくるものと考えられる。近代のトレーニングの原理はこのような自然の摂理を利用したものである。

この原理は単に筋力のみでなく、他の体力例えば呼吸機能や循環機能の面でも同様である。図1は、私の勤務している京都大学で、長年にわたって毎週2回づつテニスの練習を続けた中高年の先生方の、最大酸素摂取量の逐年変化を示したものである。

図1



最大酸素摂取量 (VO₂ max.) などといえば、難かしい理窟と思われるかも知れないが、ヒトが力一杯の全身運動をした時に単位時間に体内にとり入れられる酸素の量と考えれば良い。私の研究室では、トレッドミル (中世の西洋の囚人が課された足ぶみ粉ひき機) という名前の移動路面の上を、被検者に分速80mで歩いてもらって、このトレッドミルを傾けて段階的に登り傾斜をつけてゆき、もう参ったという時の1分当りの呼気を密閉した袋に摂取して、その中の酸素の消費量を測定することになっている。昨年のロスアンゼルス・オリンピックの前に、マラソンの瀬古選手の値が82ml/kg、サラザール選手が84ml/kgと新聞のスポーツ欄に報じられたあの機能である。

これは人間の持久力の指標と考えられ、中高年ともなると筋力よりは持久力の方が重要であるといわれている。このグラフには、昭和49年から同59年までの10年間の測定値が描かれているが、シーズン中 (4月~11月) に増加して、シーズンオフ (12月~3月) に低下する傾向が認められる。全般的にみれば持久力は横ばい状態か僅かに上昇しているということが出来るが、これらの被検者の年齢は45~63才であり、この年代では毎年2~3%の割合で体力は低下してゆくのが普通なので、確かにテニス練習でのトレーニングの効果は生じているものと考えられる。これらの数値をもとにして体力年齢を計算してみると、人によって違いはあるものの、4~10才若い人と同等の体力があるという答えがでてくる。勿論、直ちに4~10才若くなったということとは出来ないが、毎週2回テニスを練習することで、4~10才若い人と同じ程度の活力を保ち得たということは、我々中高年者にとっては大変に喜ばしいことである。もっとも、3~4カ月トレーニングを休むと、すぐにもとのレベル近くまで体力が低下することも見逃してはならない。

ふり返ってみると、冒頭の私の体験も外遊やその他の雑用で、昨年8月からまともにトレーニングに参加していなかったことが原因であると考えられるし、南部氏の事故の原因もおおよそ想像がつく。

中高年ともなれば、テニスの試合に出ようとするには、それなりのからだの準備が必要であるし、ましてトーナメントや大きな大会に参加する場合には、少なくとも3~4カ月のトレーニングが必要であろう。

古い諺に「昔とった杵柄」というのがある。この言葉には色々な解釈が可能であるが、現代のスピードとスタミナの要求されるスポーツでは、これだけでは通用しない。

熟年パワーを見せつけてやろうと思えば、それなりに慎重な準備が必要であろう。
(山形高校OB)

テニスあれこれ

副会長 許 敏信(昭19・金属)

昭和9年にラケットを握ってから50年が過ぎてしまいました。その間に色々の思い出がありますが、その中の一つに大岡山のコート(現在の軟式コート)の思い出があります。

この事を思い出す度に当時建材研の助手をしておられた田治米前会長の事が偲ばれます。

当時、新入生の我々が練習を始めると必ずラケットを持ってコートに来られ我々の相手をして下さり、いつも正確な緩急自在のボールを打たれて、練習量の少ない我々にとっては誠に有難たい存在でした。卒業後はOB戦でしばしば御会いしてコートでプレーをした事等が思い出されます。又、津村先生の後、当クラブ会長になられてから、OB戦は御病気の時以外はかかさず出られ、又幹事会をとりしきられ、会の運営発展につくして下さいました事に対して感謝を捧げると共に、今は亡き田治米前会長の御冥福を祈ります。

人は夫々顔や体格が違う様に、テニスもプレーする人の体格や体力によって違ってきますので夫々自分にあったテニスをするのがよいと考えられます。ここで、テニスをするのに共通の基礎的な事を二、三述べてみたいと思います。先づ第一にテニスはボールゲームなのでプレーする人はいつでも目をボールから離さない事が大切です。即ちボールをいつもみていることです。テニスのプレーをみていると、普段はボールをみているのにプレーの最中にボールから目を離して対戦相手のみて打つ人がいますが、これをするるとボールがラケットのセンターから外れ、ボールが思う様にコントロールされないか、ミスショットになりやすい。その為に試合に敗ける事がよくありますから、ボールから目を離さないという事を守ってプレーする様に心がける努力をして欲しいと思います。

次にボールに慣れることだと思います。ボールはワンバンドでとるということに慣

れることです。テニスの打球をするには横向きに打つことが必要です。よく正面打ちをしている人を見かけます。正面打ちで打ったボールに体重が乗らず、又球の威力も不足気味になります。できるだけ横を向いて打つようにしたいものです。それには慣れる様にする事で、その為には打球の時ばかりでなく球を拾う時に体を横にして拾う様になると早く慣れます。即ち、左足又は右足を横に踏み出す様に心掛けて実行すればよいと思います。これをするとフットワークがひとりでに形成されその練習にもなります。

又コートに入ったら踵を地面につけない様にする事を心掛ける事。これは体を敏捷に動かす事に必要な事です。次にグリップの問題があります。グリップには大別するとイースタングリップ、コンチネンタルグリップ、ウエスタングリップがあります。これも人によって多少の違いがあります。私の考へではどのグリップでもよいと思いますが各グリップの特徴即ち長所と短所を充分わきまえる必要があると思います。私は握った手とラケットの間に隙間のないのが一番よいと思います。それには自分でラケットを握って人にテストして貰う事です。

次にグランドストロークについて述べたいと思います。グランドストロークはテニスの中軸をなすものでこれをなすには打つ為の動作を分解しなければなりません。その順序は構え、フットワーク、スウィングとなります。スウィングはバックスウィング、フォワードスウィング、インパクト、フォロースルー、フィニッシュにわかれます。尚それと共に重心の移動と体の回転が重要です。バックスウィングはボールを打つ準備だから早く引く事。この引く時は手で引くというイメージでなく肩、腰のターンを使う。重心はこの時後足にある。フォワードスウィングは水平から前上方のスウィングをする。これは肩、腰のターンの戻りを利用してゆっくりとシャープにする。体重は前足に移動中。インパクトはラケット面がフラットになる様に手首、グリップをしっかり固める。体重は前足に移動。フォロースルーはボールを打つ方向へ自然に押し出す感じで力を抜かずに最後まで振りきる。フィニッシュは振り切った後は力を抜き、次のボールに備える。グランドストロークはこの繰返しであるから、いつでもこの順序を忘れずにやる事が大切です。尚、ラケットは水平かそれよりも面が上がる様にするるとよい。以上簡単に思うままに書いてみました。他の細かい事は又の機会に述べることにします。

テニスと私

副会長 久保 康夫(昭22・機械)

私の高校時代の友人に剣道の達人がいる。最近のことだが、その友人が「テレビで世界一級の選手のテニス試合を見るチャンスが多くなったのが楽しい。テニスのテの字も知らない自分にも、あの気迫に満ちた眼光には身振るいする程の素晴らしさが伝わり、道場に立ち、上段に振りかぶって、まさに打ち込まんとする時と同じ興奮を覚える。あの緊張した精神と肉体の状態を、あの長い時間維持し続けるとは、テニスというスポーツが一番厳しいのではないかと思うようになった」と話しかけて来た。私も、全く同感に思う。

即ち、“テニスは、非常にメンタルな要素に左右される率の高いスポーツである”と言われるのも、宜なるかなと思う。私事になるが、心筋梗塞を起こしてから一年半後、主治医のOKも出て、しかし、“無理は駄目。訓練で憶えたとおりに脈博に注意して…”との条件の下にコートに再び立つことが出来たが、それから約1年経って“もう気にしないで良い”と言われる迄は、正に出ると負けで、いっそのことゴルフに復帰しようかと考えたりしたものである。“気にしない”ということは、その具体的な結果の現われとして“その間の呼吸を止めて、神経と肉体とを一点・一挙動に集中する”ことを意味し、一部の能力が死滅し、訓練による強化が進まない残った部分のみの心臓では耐えられない。氣息奄奄では体力、まして気力も最後まで持たないということである。

さて、この様な私が偶には勝ち、再びテニスを“楽しめる”ようになったのは幸せという他無いのであるが、最近“われ老いたり”と感ずることが多くなった。ベースラインでの打合いなら問題無いが、ボレー・ボレーの打合いの時とか、太陽が目に入った直後にボールが見えなくなることである。要は、球を追うための瞳孔・眼球を調節する反射能力が鈍ったのである。それでも、さんざん練習してその日の終り頃になると、その能力が可成りに戻って来ることが判る。しかし、その時は他の肝心な体力の方が疲れて来ているということで、仲々うまくゆかない。当り前のことと言って終えばそれ迄であるが、いよいよもって、コートに出て鍛えるチャンスは一回といえども見逃し出来なくなり、ゴルフからはさらに遠のくことになりそうだ。

満60才になった時、嫁入り近い娘が、記念にとセミ・ラージのラケットを贈ってく

れた。

娘はラージをと奨めたが、ラージは70才になったらと意地を張った。それでも可成り返球が楽になったのは、ラケットの真芯の面積がホンのわずかではあるが大きくなって、反射能力の衰えを補なってくれたからであろう。あのスピードの有る球を追って、ホンのわずかな違いで快音が出る微妙さ！ 70才迄セミで頑張れるか？ 頑張るぞ！

思いだすままに

村上 裕輔 (昭28・化学)

家内が伴野さんから電話ですという。伴野と言えば、かつて国立大学きってのテニスの名手として知られた男だ。一体今頃なんだろう。部誌を出すので何か書いて欲しいとのことであった。どうも文才もないし種もないし困ってしまって、とっさに誰かほかの人に頼んで欲しいとわけのわからないいゝわけをしてことわった。伴野君は大変良い人でその上察しの良い男だ。「では原稿用紙だけでも送らせて頂きます」と私に敬意を表して電話を切った。原稿を書くことは誰にとっても大変だし、ことわりたいたいものだ。だから頼む側とすればもっと大変だろう。それを知りながらことわるなんて伴野君に悪いことをしたと思った。しかしまた逆に、変なつまらないことを書いては皆さんに申し訳ない。どうしたらよいか困った。

もう大学をでてから三十年も経っている。大学の頃あまり人には話さなかったが実は健康がすぐれなかった。戦中戦後の物資のない頃に育ち、きっと栄養不良だったのであろう。体調は常に不調で、無理をするとすぐ発熱するという具合であった。本当はテニスどころではなかったが、やる時にはできるだけ力を抜いて疲れないようにやっていた。

そんなわけで、どうやら卒業したが、卒業後間もなく、山中君ともう一人家に来られて、後輩の指導をという話であった。当時未だ体が本調子でなく、多忙ということで辞退した。さぞ誠意のない先輩と思ったでしょう。

私が横浜工場に勤めていた頃、鈴木君が就職の相談で来られた。丁度その日私は休んでいたためにお会いすることができなくて申訳けなかったが、その後超一流会社に

はいられたと聞いてほっとした。

ちょうど私のいた会社の経営が悪化し、経営者が交替した頃、平井君が工場にいらしたが何のお役にも立てなかった。

その後本社に移り、同じ丸の内界隈に一年後輩の木本君がいた。きっかけは忘れたが、近くにいるということで会うチャンスができた。彼の盟友で一見映画スター風の栗田君も一緒であった。この二人は学生時代私と一緒にいたはずだが、あまり記憶に残っていない。でも、同じ釜の飯を喰った仲間ということで、よくつきあってもらっている。

田治米さんがなくなられた時、寺尾さんから電話があって年度委員として何人かの人に連絡を頼まれたが、日頃なまけていたために住所がわからずそのままになってしまっ、大変申し訳ないことであった。

今鶴岡におられる染野先生には先生ご自身が発案されたラケットを紹介して頂いた。ラケットはとても良かったが、それを使いこなす腕がともなわなくて残念だった。

大先輩の許さんにもいろいろとお世話になった。

吉川君には技術のことで、津田君には仕事のことでお世話になり、その上、京都の名所で御馳走にまでなった。

今思い出してみるとみんななつかしいことばかりである。全部の方について書いていくと名簿を作ることになってしまうが、同じ学校、同じ部ということだけで、多くの方々と楽しいひと時を過ごすことができたり、いろいろとお世話になり、感謝の念で一杯である。

テニスは冷たい恋人

森 辰男 (昭28・化学)

私は高校時代、体操部に入っていた事がある。そういうと、人は大抵げげんそうな顔をする。そんな運動神経があったとは、とても思えないかららしい。事実、二年間体操部に籍を置いたのだが、空中転回一つ、出来るようにはならなかった。

あたり前である。練習をさぼりにさぼって、部員仲間と麻雀ばかり打っていたのだから。もっとも、真面目にやったところで上達する訳はなかったのだが。

私は馬をやったことがある。若い人達に真面目な顔をしてそういうと、ドッと笑う。競馬のことだと思らしい。そうではない。乗馬である。一年間、馬術部の寮室で暮したが、これもうまくならなかった。

乗ることは出来るようになった。しかし走れないのである。いや、正確に言えば走ることは走れるのだが、たちまち落馬してしまうのであった。うまくするには、一年間では短かすぎたのだと自らを慰めている。

私は弓をやったことがある。やるにはやったが一日だけである。

一日やって「面白い」と思った。入部の希望を書いて出した。中学一年の始めの頃である。（生徒は全員、運動部のどれかに入る事が強制的にきめられているスパルタ学校だった。）しかし、どういう訳か割当てられた部の名前は弓ではなくて庭球（硬式）だった。私とテニスの縁はこうして始まった。

そして皆さんと同様にテニスを楽しむようになるのだが、学校を変ったり職を変えたりするたびにテニスとの縁は切れたりつながったりした。つかまえようとすると思えば、あきらめていると近寄ってくる「冷たい恋人」のようなものだった。

中学一年で始めたテニスは二年生の時に縁が切れた。転校先の東京の中学には軟式しかなかったのだ。その次に行った軍隊の学校には勿論ある筈がない。戦争が終って二年、ようやく入った高等学校で「恋人」にめぐり会った。だが入部を拒否された。「球歴が浅い」という理由で。そしてどういう訳か体操部の寮室に入れられる事になる。それでも好きだという事はどうしようもないもので、庭球部の練習を見に行った。何と、私より下手なのが随分いるではないか。「何だ。こんなものか。こんな部なんか頼まれても入ってやるもんか」と思った。三年間は無為に過ぎ、東工大に入って、「恋人」に温かく迎えられた。三年間はテニスで楽しく幸せに過した。

だがその後がいけない。就職した先の会社で九州の工場へ配属になったが、又してもそこには軟式庭球部しかなかった。何たる事か。

今の時代なら会社の下調べ不十分という事になるのだろうが、何しろ新制と旧制が一諸に卒業した年で、テニスで会社を選んでいる余裕などなかった。

しかし、之では俺は一生テニスにありつけないではないか。新入社員の中でもう一人硬式テニスをやる同志が居て共に悲憤慷慨。幸運な事にその工場には、昔外地で硬式をやったという部長が居た。その部長を甘言を以って誘い、遂にアンツーカーのコ

ートを3面、作らせる事に成功した。次いでスポーツの出来そうな部課長を全員、部に引張り込み、次の年から新入大卒社員には強制的にラケットをあてがって部員を増やした。しまいには軟式庭球部から腕の良いのを引っこ抜いて、その部をつぶしてしまった。こういう荒っぽい仕事は概ね同志の方が主として腕をふるったのだが、それにしても上司もよく黙ってやらせてくれたものだとも今でも感謝している。

しかし幸福は長く続かない。入社5年目に会社が潰れた。大争議が起った。同期生は3分の1が退社して行った。6年目に私も見切りをつけて今の会社へ移った。傾く心配のない会社を選ぼうと思った。選択は間違っていなかった。だが、ここには、又しても軟式庭球部しかない。それも「社技」として奨励しているのだ。万事休す。そこで諦めればいいのだが、軟式でもテニスには違いない。そう思ってコートへのぞきに行った。そのうちに「お前テニスやれ」。……「俺は軟式は出来ない」「それなら監督やれ」……「じゃあやるか」。こうして「恋人」でない方の軟式テニスから惚れられて、心ならずも監督業とスカウト業に、はまりこむ破目になった。14年間やって些かの業績を残した。今は仕事上のポストの関係で応援団長役をつとめている。

3年前に、軍隊仲間が作っている硬式のサークルから誘いがあつた。月に1回、半日のお遊びテニスだが片道2時間かけて精勤している。夏には立教大学の人達と一緒に、老若男女が入りまじった3泊4日の合宿を、軽井沢でやっている。楽しい事は楽しいのだが、今はもう燃えるような気持は湧いて来ない。

追いかけてばかりいるうちに情熱が燃えつきってしまったのだと思っている。

テニスは、私にとって永遠に、「冷たい恋人」のままで終りそうである。

キリンも老いては

仲野 道雄 (昭29・機械)

「キリンも老いてはドバに劣る」という言葉を老境に達した柳生但馬守がよく口にしたりと伝えられています。剣の達人が次第に衰えてゆく己の武力を自覚して自らをいましめ、また時には自嘲気味にこの言葉が口から洩れたこともあったのでしょう。

私は絵が好きでよくワイフと一緒に美術館を歩きます。描く方は若い頃少しばかりやっただけで休日まで仕事に追われる年代になってやめてしまい、まだ再スタートに

は至っていませんが海外出張時の美術館歩きも含めて見る方は機会に恵まれ、少しづつ良い絵がわかってきたように思います。

さて、私のようなサラリーマンに買える範囲の絵は無名画家のものばかりですが有名な老大家の絵の中に全く値段にふさわしくないのがあるように思えてなりません。NAME VALUEもVALUEのうちですからそれでも良いのかもしれませんが「キリンも老いては」とつぶやきたくなるような作品にケタ違いの商札が付いているのを見ると剣やテニスのように価値基準（勝負）のハッキリしていない世界では「ハダカの王様」がゾロゾロ歩いているようで、こっけいですらあります。良い絵を描くには体力と気力（意欲）の充実が前提条件として必要だと言った画家の言葉に私は賛成です。

私の会社に壮年クラスで全日本選手権に毎年出場している男が居ります。その彼が昨年の夏、社内大会の一般男子シングルに出場してテニス歴5年の新人に敗退するのを見て今さらのように年令の壁の残酷さを思いました。彼は今でも華麗なフォームでプレイしますがそれはもはや「テニス界」では通用せず、「壮年テニス界」でしか相手にされないのです。その点、工大テニス部員やOBの大多数のように（失礼！）最初からドバテニスの者はいつまでもドバテニスのままで幸福なのです。（こんなことを書くともう、うっかりOB戦に出てゆけなくなるかも）

然しどんなに年をとってもテニスはこれが続けている限り常に自分に課される技法上の課題があり、創造心を刺激し全身の活力をよみ返らせてくれます。仕事に押しつぶされそうに忙しい時期程、寸暇を惜しんでテニスに熱が入ります。人生の充実を感じるのはこういうときで、私はテニスというものの存在に限りない感謝の気持を抱き続けて、この週末もまたドバテニスなのです。

幹事会に望むこと

平井 満夫（昭31・化工）

昨年6月の総会を機に幹事をやめさせて頂いた。振返ってみると昭和55年から4年間の勤めであったが、大した事も出来ずに申し訳なく思う次第である。

OB会の運営は、なんといっても幹事会がその中核をなすものである。私も任期の終りの頃は仕事が忙しかったせいもあってさぼり勝ちであったので、あまり大きなこ

とは言えないのであるが、どうも最近の幹事会はマンネリ化の感なきにしもあらずである。

「始めるは易しく継続は難し」といわれるが、続けるということは難しいことである。新幹事会の方々がフレッシュな感覚でOB会を活性化される様願ってやまない。皆さん夫々に多忙な仕事を持っておられるので仲々大変なことであろうが……。

OB会が単にOB同志の親睦に終ってはならないと思う。クラブの規約にもある様に、現役庭球部の「発展強化育成のための援助指導」が重要である。私は、庭球部に対して財政的援助が出来ない様ではOB会の意味はないとさえ考える。

コーチングスタッフによるテニスの技術的精神的指導。これもOB会の重要な仕事だと思う。強いチームには必ずしっかりした監督なりコーチがいるものである。

こういうことをやってはじめてOB現役一体の充実感が味わえるのではなからうか。

次にOB同志の懇親についてであるが、かなりの腕自慢でも、最近はテニスもやっていないので行きにくいなと思っている誇り高き？OB諸兄がかなりおられるのではないかと思う。たとえテニスをやらなくとも気軽に来れる様な懇親会を、たまには企画して貰いたいと思うのだが……。

以上、幹事をやめたい、たい放題かといわれるかも知れないが、幹事会へのお願い事を書かせて貰った。

最後に、OB会の発展充実のために並々ならぬ御尽力を頂いた故田治米辰雄会長の霊に謹んで哀悼の意を表する次第である。

中国のテニス見聞記

後藤 需夫（昭35・金属）

中国の昆明は1984年春、日本と中国の間でデビスカップ戦が行なわれた場所である。このデ杯戦については色々な話題があった。先ず昆明は海拔1800メートルの高地であるため、福井をはじめとする日本チームは草津で高地トレーニングを実施したこと。昆明での試合で中国製のボールを使用したところ、これが真球でなく“ブルンブルン”とふるえながら飛んで来たこと。食物にはへびやとかげが出てきてへきえきしたこと等であった。ちょうどこの様な記事が新聞をにぎわしていた頃、その昆

明で行なわれる国際学会に出席する事になった。同行者がテニス仲間であったので、これは一つテニスの用意をして是非日本テニスの層の厚さ（すそ野の広さ？）を見せてこようと言う事に相なった。

昆明は雲南省の省都で人口100万人、ベトナムとの国境まで300kmと近く、ベトナム戦争の頃はホーチミン支援の、又中越戦では自軍の兵站地となった地である。香港から西へ約2時間の飛行であった。昆明滞在は10月下旬から11月にかけて約10日間。気候は温暖で雨も少ないとのことで、テニスにはもってこいの土地柄である。どの学会もそうであろうが、自分の仕事から少し離れて来ると過速度的に興味は無くなって来る。宿泊していた“昆明飯店”からさ程遠くないところはかなり大規模な体育施設がある事が判っていたので、その付近でテニスコートを探す事とした。我々の服装は中国の人民服一色からすると随分と変っているのであろう。町を歩いていると多くの視線を感じる。体育館やバスケットボールのコート、陸上競技場、ずっと奥の方にあった、あった。土壁に囲まれたテニスコート10面程度。色の黒い小さな年増の女性がギッチョで壁打ちをやっている。さてこれからが大変だった。何しろ先方は中国語しか理解しないし、こちらの中国語はマージャン用語と“ニーハオ”のみである。そこで筆談による事となった。

「我望庭球練習。可能？」どうもうまく通じない。しょうがないので身振り手振り。これはすぐに通じた。彼女は一旦奥に引込んで古びたラケット2本とボールを持って来た。とりあえず一度打って見ると言うのである。当方本日は靴はないし、背広のままだし、と思ったのであるが、その様な複雑な事を説明するよりは打った方が簡単である、道具を借りてちょっとやって見た。くだんのおばちゃんは「仲々やるではないか」と言う顔で見ている。小さな子供も集まって来たりしたので今日のところはこれでやめて又明朝来る事にした。

さて翌日朝8時、約束通り、今度は当方すっかり準備を整えて行って見ると、昨日のコートは奇麗に整備され、ラインも石膏で鮮かに引かれていた。昨日のおばちゃんが今朝は随分美人の熟女を一人伴って待っていた。おばちゃんの方はどうしてもやらないと言うので熟女と三人で「中日対抗シングルス大会」を行う事となった。日本から持参したニューボールを開けて使ったところよく飛ぶ。1800mの高度では大気が0.8気圧と低いので、ボール内の圧力は相対的に大きくなっているのと、大気の密

度も80%程度に小さいせいである。熟女の腕前はかなりのものであった。彼女は名前を“焦蘭芳(シャオランファン)”と言い45才、かつては選手であったが、今は少年少女のコーチをやっているとのこと“云南省体育委員会、網球隊教員”がその肩書であった。ここで庭球の事を上記の如く囲の中に人間が二人居て、ネットを糸へんで表すとは、まさに象形文字そのものであり興味深い。試合の方は高地の薄い空気にもめげず、タイブレークで辛勝、しかし大の男二人でか弱き中国女性をやっつけるなどはあまりほめられた話ではなかった。

翌日は午後の約束であった。焦蘭芳女史のかつての教え子、15才の男女が我々を待っていた。女性の方は流暢な英語を話し、我々のコミュニケーションの内容はかなり向上した。彼女等は昼間はテニス学校で練習、夜間学校で他の勉強をしている。焦蘭芳女史の今の生徒は10才以下で小さい子は4~5才であったので、この年令から昼間はテニス・夜勉強と言う生活をするかなりの人数のグループがある。

本日は町で買って来た上海製のボールを使用して見た。ラグビーボールの様な形を想像していたが、我々には全くわからない。あれは単なる話であったのか、それとも数多い中にはラグビーボールが存在するのか? 若年選手達とさかんに楽しんでいたところ、目付の悪いおじちゃんが出て来て、焦蘭芳女史や初日のおばちゃんとは何やらもめ始めた。どうやら我々日本人が勝手にテニスをやっている事に対するクレームらしい。焦蘭芳女史が英語の少女をつれて、気の毒そうな顔をしてやって来た。コートを掃除したり、ラインを引いたり手間がかかったので金を払ってくれと言っているとの事であった。それは当然である。していか程お支払いすればよろしいか? 外国人は少々高いがとの請求が一面一日に付日本円700円であった。例のおじさん、ひどくここにきて大きなはんこを押した領収書を持って来てくれた。翌日もう一日今度は日本にも来た事があると言う本当の女子選手も出て来て、これはコッテンパンにやられてしまった。国際学会転じて、これはもうテニスの合宿の様になってしまった。突然のちん入者であったにもかかわらず中国のテニス人は親切で、礼儀正しく楽しい経験であった。

最後に焦蘭芳女史の筆談は“歓迎再次来昆明”であった。

蔵前の皆様も海外に出かける時はテニス用具持参をおすすめします。時差ボケ解消消化不良にはもってこいである事はまちがいない。

人体の運動時の内部環境

村上 博 (昭45・生機)

我々の体は激しい運動に耐える事も可能かと思えば、ちょっとした事でダウンしてしまう事もあります。しかし人体の各臓器の予備能力は少くとも安静時の5倍以上は見込まれている様です。例えば、腎臓はその機能発現の最小単位である糸球体の数が(片腎で100万個あると言われている。)20%残存していれば日常生活に耐えられます。肝臓に至っては肝硬変患者の肝生検で肝細胞が90%位まで線維で置換されていても無症状なばかりか、血清の肝機能検査も正常を示すことがあります。心臓は安静時には1分間70~80回の収縮を繰返しています。1回の収縮につき体重60kgの男性で約80mlが心臓より駆出されます。全血液量は約5,000mlですから、約1分間で心臓から出された血液は心臓に戻ることとなります。運動時に心臓は1分間に160回の収縮を行うことが可能です。これは安静時の約2倍です。それでは、心臓の予備能は他の臓器より小さく見積られているのでしょうか? そうではありません。これで十分なのです。運動時には最優先で筋肉に血液が供給される様に生理的变化が起こります。例えば腎血流は落ち、その結果尿量は極端に減少し、安静時の何倍もの濃縮能を発揮し、非常に濃い尿を産生します。消化管の血流も落ち、その活動は抑えられ、腸のぜん動運動は低下し、吸収も悪くなります。肝血流も減少します。代謝活動の中心をなし、糖、蛋白、脂肪等の合成・分解の場である肝臓は、全体として血糖を上昇させる方向に働きます。運動中にエネルギー源として大量のグルコースが必要となり、肝臓に貯蔵されている糖質を血中に放出する必要があるからです。

この様に運動時には我々の体は特別な状態に置かれ、その状態に反応して種々の変化を来たします。その中でも特に必要なのは酸素とグルコースであることは言うまでもありません。十分な酸素が供給されない時は通常は“息切れ”という型で feed-back がかかり運動をやめることにより元に戻ります。朝食をとらないで試合をし、しかも水分を十分に補わずに頑張ってしまうと、よく脚の筋肉のけいれんを起こす人がいます。これは、もはや肝から供給されるグルコースが枯渇し、主たるエネルギーは組織のグルコーゲンや脂肪組織の分解により補われている状態であるにもかかわらず、運動によるエネルギー消費が圧倒的に優位となり筋肉でのグルコース不足が生じたことが主因で、それに発汗と不感蒸泄による大量の水分消費による脱水が加わった

為と考えられています。このように長時間の運動に耐えるにはその1時間前までに十分な栄養の補給をしておく必要があり、その内容としては直接エネルギー源として使われ易い糖質が最適です。又水分及び塩の補給も試合中に行うことが不可欠です。又試合後も腎の負担を軽くする為に利尿がつくまで水分摂取の方が望ましいのです。

最後に運動が時に命とりになる場合の話をしてします。年をとるに従って肥満傾向がめだつのが最近の日本人の特長です。肥満症の人の拡張期血圧(血圧の下の方の値)は一般に徐々に上昇してきます。これは肥満により血管が周囲より圧迫され、抵抗が高まった結果です。これに年齢が加わると血液中で高値を示すコレステロールや中性脂肪が血管壁に沈着し、更に血管は細く、その上に硬くなり弾性が失われ、血圧上昇に拍車をかけます。心臓は大動脈の圧力に抗して血液を駆出する為に、拡張期血圧が高いと、その収縮毎の仕事量が増えることとなります。つまり心臓は powerful にならざるを得ません。通常は心筋を太く、大きくすることにより代償します。しかし心臓は大きくなっても、心臓を栄養している血管つまり冠動脈の径は太くはなってくれません。むしろ、上記のような動脈硬化の為、径は加齢と共に細くなるわけです。この様に心筋への血液供給すなわち酸素とグルコースを十分に供給できない状態が器質的に存在してくるのです。この需要と供給のアンバランスを更に助長させるのが運動で、運動時に胸痛を訴える人が出てきます。運動をやめれば胸痛は消失します。これが狭心症です。これに対し不可逆に血液供給が行われなくなった状態が心筋硬塞です。冠動脈造影をすると三本の冠動脈のうちのどれかが閉塞し、他の二本も狭窄していることが多いのです。狭心症、心筋硬塞が50才台に発症することが多いのは上に述べた様な血管の変化が症状を現わすほど進行するのに時間がかかるからで、逆に言うと症状の出ないうちに動脈硬化による狭窄という変化は徐々に進んでいるのです。しばらくテニスをしていない人が自分の体型の変化を無視して以前と同じ様な華麗なテニスが出来るとするのは危険です。Diet control, Weight control を心掛け、それなりのテニスを目指すことをお勧めします。

(昭55・千葉大医学部卒、内科)

雑 感

細内 正紀（3年・建築）

早いもので、もう3年です。今年は、最上級生として、部をひっぱってゆかねばなりません。そこで、この2年間を振り返り、自分なりにいろいろ考えてみました。

2年間活動してきて、まず感じたことは、クラブ全体の雰囲気がいまいち暗いということです。体育会である以上、勝利を追求し、そのために、選手にプレッシャーがかかるのは当然です。問題は、いかにしてそのプレッシャーをはねのけるかということです。今までのような重苦しい雰囲気では、すぐプレッシャーに飲み込まれ、普段の実力をまったく発揮できずに終わってしまいます。プレッシャーに押され、陰気に内にこもってしまうのではなく、逆にプレッシャーをはねのけるぐらいの陽気さ、おおらかさが、現在のうちの部には必要だと思います。それには、3年の態度がカギを握っています。やはり、部の雰囲気には、3年の雰囲気が色濃く映し出されるものです。1、2年の前で、3年が黙りこくった活気のない態度をとれば、部の雰囲気が沈むのはあたりまえです。また、3年は普段から1・2年と一緒に機会をもつよう心がけ、縦のつながりを親密にするよう努力する必要があります。そうすれば、3年の考えが1・2年に伝わらないとか1・2年の応援に3年がこたえてくれないとか、そういった学年間の溝がせばまると思います。なにかうちの部は、水・土・日だけしか、サークルと呼べないような気がして仕方ありません。

次に感じたことは、うちの部が守りのテニスだということです。大きな試合になればなるほど、その傾向は顕著にあらわれます。守り＝暗い＝負けと考えるのは僕だけでしょか。ある程度実力のある人が相手だと、ミスを待っているだけでは絶対に勝てません。攻撃あつての守りであり、守りあつての攻撃です。7部の上位校は、ハードコート育ちのもの凄い攻撃力をもっています。彼ら相手にシコろうが何しようが、それはまったく無意味です。彼らを撃破して昇格するには、彼ら以上の攻撃力を身につけなければなりません。だから今年は多少荒いテニスになることを覚悟して、ネットプレーでポイントを取るテニスをめざして頑張ろうと思います。

抱 負

近藤 知彦（2年・電物）

テニス部に入部してからの一年間、様々な思い出が出来ました。それらの中で最も印象に残り、勉強になったのが、春のリーグ戦に出場したことでした。一次リーグでは、先輩方が素晴らしい試合をして、チームに勝利をもたらしているのに、私は対等に戦えたはずの相手にここというところで負けを喫してしまいました。足利工大戦では、相手のNo.1と思われるプレーヤーと試合したのですが、各ゲームでデュースやアドバンテージを握っておきながら、1-6、1-6と悲惨に終わってしまいました。負けの原因としては、ハードコートにおける技術的な面もあったとは思いますが最も強く感じたのが、ポイントを握ったとき、あるいは握られたときの相手と私の強さの違いでした。私はもともと自分では、ポイントに強い方だと思っていました。がそれは、ポイントのプレッシャーに負けずに集中できるということにとどまっていたようです。ところがこの相手は、この重要なポイントになると、自分の持っているベストのパターンを駆使したり、相手に（つまり私に）今のはしょうがないと納得させるような決め方をしてくるのでした。

私はこのとき、練習と試合の違いを痛切に感じ、又、普段の自分の練習を省みなければならなかったのです。私のこれまでの練習中に考えていたことは、例えば、「スマッシュが弱いから強化しよう。」とか、「ストロークの調子を取り戻そう。」などといった個々の技術にのみ気がいってしまい、試合中のどうしても欲しい1ポイントの組み立てのことを想定したりはしませんでした。もちろん、自分の各ショットの技術のレベルを知ることは重要なのですが、私の練習には、試合のつもりになって練習するような態度がもっと必要だと思いました。

幸いにして、私はまだ2年になったばかりで、後2年間、今回の貴重な経験を生かすチャンスがあります。秋の理工系リーグ戦まで半年ありますが、それまでに、今回の反省を大いに生かし、チームの2部昇格には是非貢献したいと思っています。

会員便り

急いで事は仕損ずること

本間 進(昭27・建)

3人の娘が相次いで片付いたのを機会に、30年余住み慣れた田端から58年10月旗の台に引越した。老後への準備である。趣味を持って楽しく過したい、が願望である。スキーは今年は4回延14日間を滑り満足している。ゴルフはホームコースが環七から湾岸道路を通して1時間強で行けるので申し分ない。釣りの方は一昨年4級免許をとるなどして、次はどうしようかなど思案中である。

そしてテニスだが、引越早々先ず電話帳で至近なテニスクラブを探す。車で5分位の所にMクラブがあった。早速行ってみる。お世辞にも立派とは云えないハウスで愛嬌のないおじさんに会った。こゝは短期会員制で一年20万円だが、今一杯で順番を待っていてもいつになるやらわからないとのこと。聞いてみると沢山見えたコートのうち道路の反対側の立派な方は別のクラブのものだと云う。隣のクラブへ行ってみると新しい立派で設備も良い。正、家族、平日のオール会員制との事、経営者は地元の有力造園屋さんだ。オープン時だから200万円のところ180万円、そして年会費は9万6千円だと云う。少々高いなと思いつゝも、すでにその気になっているものだから早速申込み。12月には会員親睦Xマスパーティなどがあり、非常に良い雰囲気だ。——が良かったのはこゝまで——59年に入ると連日の雪に崇られ、素人経営者は滅入るばかり、こゝに登場したのが都内名うてのパブリック経営者、少しの資金融資をいゝことに、今迄評判の良かったマネージャーとプロを首切り、会員募集も正、家族を打ち切り、新たに短期正会員の募集を始めた。そして会員に断わることもなく、パブリック会員(入会金500万円)募集とスクール開設の広告を出したからたまらない。その後コート上で会員とパブリック会員の間でトラブルが起きたのは当然である。そして会員(特に家族会員を持った正会員)から会社側へ苦情が相次ぎ、7月になって会社側が会員に事情説明を行った。それも経営不振を盾にやむを得ないと云う一方的な強気の発言であった。会員の激昂は云うまでもない。50名の正会員は多様でそこそこの人達ばかりである。収まる筈がない。何回も会員間の打合せ会社側との折衝が行われたが全く埒があかない。会員側はやむなく弁護士に依頼してコートの仮処分申請を行った。高を括っていた会社側も慌て、弁護士を雇って応戦してきているが、裁判官が指示する和解が成立するまでは会社側も自由にパブリック会

員を入れるわけにいかず困っている。

半年に亘る調停も経営に重要な春を目前に、双方の歩み寄りで大詰めにきたようである。裁判官の指導により、会員の権利確保と、今回退会を希望する会員へのそれなりの返金と云うことで結着がつきそうである。こんなことで殆どが退会することであろうが、経営如何によっては名門テニスクラブになり得たことであろうに、残念なことである。

ちなみに私の場合、入会以来10回位プレーをしたが、もし退会返金があったとしても、計算してみると1回当たり約3万円の勘定になる。今考えてみてなんと高いプレー費であったことか、こんどはもっと慎重にやらなくてはと反省しきりの昨今である。

追記 隣接する名門Mクラブは昨年末で閉鎖された。マンションが建つそうである。

卒業 30 年

土谷 耕介 (昭30・建築)

前回は「歴代マネジャー特集」ともなればどうにもものがれるすべもなく、請われるままに駄文を草した次第ですが、またまた順番がまわってきたようです。

それ以後の「テニス歴」と言えば、一昨年の秋はじめてOB会に出て発奮、デカラゲを買ったまでですからテニスについてはそれ以上書くことはありません。違うことでご勘弁下さい。

今年は「OBの現役」である平井君ともども卒業30周年、桜が満開の母校での学年の同窓会に出席しました。

この機会に誌面を拝借して自分の30年を振り返ってみたいと思います。

昭和30年4月清水建設に入社、最初の配属は有楽町駅前「読売会館／そごう」新築の現場でした。自分のしごとのはじめてのモニュメントというところでしょうか。

32年、現場が終って研究所に移りました。

土建屋さんにも研究所が要るの？と不思議がられた時代でした。その後の10年の前半でコンクリートの品質管理、後半でコンクリートのプレハブの研究をやりました。またその間に「建設業の研究」「建築の管理技術」にも興味をもつことになりました。

41年コンクリートのプレハブの企業化とともに公団住宅など中高層アパートを工場

生産でつくる「量産住宅部」に移りました。研究したことを現場でやったわけです。

この時代の半年、プレハブの「フランス政府給費留学生」としてパリで生活しました。また工場生活で「建築の品質管理」を一層考えるようになりました。

それがもとで51年からこんどは「土建屋の品質管理」の道を歩くことになってしまいました。

無我夢中の現場2年、研究所10年、プレハブ10年、そして品質管理も間もなく10年。これが私の卒業30年の「職歴書」です。

近況報告

加藤 進 (昭32・建築)

普断はほとんどテニスをする機会もなく、仕事に追われておりますが、私の今の仕事はテニス部と大変かかわりが深いと思います。5年前に20年間勤めた会社を退職して、社員10人足らずの建築家のためのソフトウェア会社を始めました。

丁度25年前、大学を卒業して就職した建設会社が3年間勤めたところで倒産してしまい、アルバイト等をしながらその日暮しをしておりました。そんな時、偶々テニス部の先輩の故服部博士の主催する構造計画研究所という設計事務所に拾っていただきました。服部先生は我が国の建築業界に始めてコンピュータを導入された偉大な技術者で、私は研究室とテニス部の両方の後輩ということで、ずい分目をかけていただきました。私が今日何とか技術屋として一丁前の顔をしながら仕事をして居られるのは、服部先生のお陰と感謝しておりますが、その契機となったのはテニス部時代に寄附をいただきに伺った時ではないかと思っています。既に嫁に行った長女が今年は孫を生む程、私も年をとりましたが、テニス部時代の仲間や先輩、後輩の皆さんと、時々ゴルフをしたり一杯飲んだりする時には、全く昔にかえって大さわぎをします。学生時代にはテニスの他に将棋部とブリッジクラブを創設して学生リーグに参画したりして、大いに遊びましたので、お蔭で多くの友人に恵まれており、それが仕事の面にもプラスしていると思います。

今、私の会社には私の友人の息子さんや娘さん達が沢山アルバイトに来てくれます。若い子供達の世代の人々と仕事ができることは大変幸せなことだと思います。あと20年もすれば、今度は孫の世代の人々と仕事をする事になりますが、それまで

何とか現役で頑張れば最高だと思っております。

近況報告（昔と今）

笠井 耕一（昭33・電気）

私は昭和28年入学し、昭和33年電気Bコースを卒業しました。入学当時、テニスコートは下のグラウンドに在り、そこで杉本君（昭32）や加藤君（昭32）達と先輩に混って練習や対校試合をしたものでした。卒業の時は本館の前 今大きな建屋がある

にコートが在り、文字通り皆の前で、時には朝から、テニスをしたものです。そのコートで、四年生の時“国公立校の団体試合”が有り、相手校の4～5人の女子のお茶を持っての応援を羨ましく思ったものです。当時ビールも学生にとっては貴重なものであり、部の御世話を頂いていた津村先生に、上記の試合の終了後、皆にビールを御馳走して頂き大層感激した思い出があります。

私は卒業と同時に日立電線㈱に入社し、昭和44年工場勤務より本社（東京）勤務になり、昭和46年流山市に家を建て、そして現在家族（含、男子高校生2人）共々、家の近くの“江戸川台テニスクラブ”に入りテニスを楽しんでいます。当クラブには手入れの良いクレートコートが13面あり、松や杉が周りを囲んでおり、静かな良い雰囲気があります。本校の卒業生も数名おり、特に、学生時代に一緒にテニスをした後藤君（昭35）も熱心な会員になっています。私はコートに比較的不自由しなかったせいか、学生時代よりも“総合的”に腕が上ったと“自負”しています。

学生当時は珍らしかかった女子も、若い方から年を取った方まで、色取りどりの服装をして、華かに 形にこだわらない方が多いようです テニスをしています。又ラケットの種類も多くなったように、ビールも多くなり、試合中は慎んでも、終れば一杯となり、体重を減らすのに苦勞するこのごろです。

近況報告

門倉 貞夫（昭38・電気）

小生にとってテニスは、仕事や家庭と同様に生活には欠かせぬものとなっている。上手・下手とは関係なしにテニスを通じて知り合う人とはたいてい意気投合し、ビー

ルの付き合いだけでなく仕事でも何となくライバル同志のような刺激を受けている場合が多い。昭58・4月から1年間、東北大通研に研究生として駐在する機会があり、蔵前には失礼してしまったが、仙台地区のテニス愛好者と親しくお手合せする幸運に恵まれた。仙台を中心にして近郊の企業を含む実業団リーグがあり、都内の実業団リーグと同様な形式の団体戦が行なわれている。仙南クラブという大学の先生が中心になっている愛好者クラブだが客員メンバーとして歓待していたゞき、休日には足腰が痛くなるまでダブルスやシングルスを楽しんだ。また、前後の卒業年度のテニス部メンバーが集うテニス合宿は楽しい。いつも、学生時代にもどって互いに年令を忘れることができる。そのため、晩夏に照準を合わせて、体力の維持・向上を生活のリズムに組み込む努力が必要となる。

「仕事の疲れは、テニスの汗でリフレッシュする」今でも、これが小生のモットーである。

近況報告

直井 啓吾 (昭39・電気)

茨城に来てから21年になる。この間に、鹿島工業地帯の開発、筑波学園都市の建設、茨城国体の開催等により、県のテニス界も大きく変化した。

私が入社した当時は、テニスコートは少く、テニス人口も僅かであり、レベルも関東で最も低かった。お蔭で学生時代はこれといって大きな賞を貰えなかったが、こちらでは県大会のシングルスで準優勝2回、ダブルスでは優勝1回という戦績を残すことが出来た。

その後は茨城県のレベルは年々向上するのに相反して、我が練習量は年々減少したこともあり、選手としてではなくマネージャー的な役割で県のテニス協会に関与した。

茨城国体(昭49年)では審判長として、翌年の三重国体では女子の部の監督を務めたが、その後は協会役員からも開放されて、週に一度、ストレス解消と体重増加抑制のために、2～3時間テニスを楽しんできた。

テニスの妙味には年令制があり、45才から壮年の部の大会があるが、私も今年はいよいよ壮年入りである。

県のレベルは昨年の「わかくさ国体」で準決勝に進出するまでに高くなり、壮年の

部のレベルも相当高くなっているが、今年は、再び、国体出場を目標（夢？）として、練習に励もうと思っている。

尚、最近の中1の次女が本格的にテニスをやりたいと云い始めた。今春初めて参加した県のジュニアの大会の一回戦で負けたのが相当悔しかったのだろう。今迄は遊びの気持でテニスをやっていたが、これからは勝つテニスを目標に練習したいと意欲が出てきた。

今年は壮年のテニススタイルの習得と、子供の相手で休日は忙しくなりそうである。

近況報告

川上 正博（昭41・金属）

テニス部卒業後10数年間は、遅れをとりもどすべく(?)、勉学に打込み、テニスどころではなかった。こちら豊橋へ来て、ようやく多少の余裕ができ、再開した。幸いなことに、同僚の中にテニス気遣いも数人おり、けっこう楽しんでいる。腕前の方は、テニス部時代の遺産を食いつないでいる感じで、大学の職員の中ではNo.1を保っているが、市内のオープン大会へでると、予選決勝で負けるという、関東学生個人戦と同じことを繰返している。試合運びも相変らず脚を活かしたねばり専門の方であったが、最近では、試合中にけいれんを起こして負けるようになり、やはり、年令を感じずにはいられない。そこで、一念発起してイメージチェンジをはかり、短期決戦の攻撃型を目指すこととした。ストロークでは、ライジングといわないまでも、トップをたたき、ネットプレーでは、ネットへ踏み込みながらのボレーを掛けている。頭の中に描くイメージは右効きのマッケンローなのだが?!とにかく、負けないテニス（善戦惜敗型）から、負けてもいいから勝ちに行くテニスに変えたいと念じている。

大学では、学生の硬式テニス部の顧問と、職員の硬式テニス部の幹事をしている。家庭でも、家内にも教えミックスダブルスを楽しめるようになったし、子供も小学校高学年なので、時々、手ほどきをしている。大学時代をテニスに専念できた恩恵にむくいるべく、日本のテニス界の底辺の拡充に少しでもお役に立てればと考えている。

底辺の拡充といえば、豊橋でもテニス教室が大はやりで、特に奥様連には人気があるようである。驚いたことに、本学の学生でも、私に勝てないぐらいの腕前の者が、

テニ
にな
練す
大の
であ

(そ

全
の鑑

(そ
経過

低下
日の

うで

最
一で

増大
一

テニスコーチでけっこう金をかせいでいるようである。聞くところによれば、指名制になっているとかで、男芸者のような感さもある。我々にとって、テニスは自分を鍛練するための神聖なスポーツであったのに、まったくなげかわしい限りである。東工大の後輩諸君には、墮落の道をたどらず、テニスを通じて自己を鍛練して欲しいものである。

近況報告

木村 茂 (昭48・電物)

(その1) 昨年9月2日に結婚致しました。以下、妻の紹介

名 前：真理

年 令：27才

血液型：O型

星 座：てんびん座

全く意外なことに！ 結婚してみたら、掃除、洗濯、料理等何でもやるし、「主婦の鑑」です。ゴロニャン。

(その2) 7年間勤務した相模原事業場より、我孫子事業場へ転勤となって2年余が経過しました。この間、海外出張等のためテニス御無沙汰が続いてしまい、技術力の低下は如何ともしがたいようです。だいたい、半日プレーするとマメはできるし、翌日の筋肉痛のひどいこと。やっぱり、技術を支えるのは、強靱な基礎体力につきるようです。

ソフトウェア・ハードウェア？

松島 晴彦 (昭54・制御)

最近世の中ソフトの時代と言われ、ソフトウェアが主流をしめている。鉄鋼メーカーで電気計装関連の仕事をしているが、実務上でもソフト関連業務の比率がますます増大している。

一方テニスを考えるとこれは全く逆の方向へ進んでいる。大学院卒業後早くも4年

が過ぎ、テニス部現役時代からは7年も経過している。現役時代はお金もなく、ラケットはウッドか一番安いファイバー、ガットはもちろんハイシープとハードウェアは安価に、そして日々の練習でいい球をと、ソフトウェア重視の思考であった。その結果としては、目標に対し3σで1m位の球を打っていたような気がする。最近、ラケットはセミラージのファイバー（市価?万円）、そしてガットはシープとハードウェアはベストに近いが、ソフトウェアの方は、練習量が極小値に近いため全く充実しておらず、サイドをねらうとほとんど外側へはずれる。それでもたまたま、ハードウェアの恩恵で相手をアツと言わせるショットが打て、何とか対等の様な顔をしてコートに立ってられる次第である。

千葉の田舎のためテニス環境は良く、会社のナイターコートは夜10時までやっている。しかしナイターが終わる頃もデスクにむかって仕事をしていることが多く、ハードな業務の比率がへり、ソフトなテニスの時間が増える日を待ちこがれるこの頃である。

近況報告

田中 史明（昭57・土木）

昨年、6年間の大学生活に終止符を打ちやっと就職しました。

入社後すぐにテニス部に入りましたが、硬式庭球部時代主務をしていた頃の悪癖(?)が災いし、クラブの雑用を次々と引き受けてしまい、「配属先はテニス部？」などと言われまいかと思ったりしています。

肝心の自分のテニスの方は、練習不足も手伝い、レベルアップはほど遠いといった状態です。

又、この3月スキー中追突され右親指を骨折してしまいました。とっさに利き手の左手をかばったのは社会人の自覚の現れでしょうか?!

テニスシーズンには出遅れてしまいましたが、早く指を治してテニスを楽しみたいと願う毎日です。



蔵前テニスクラブ活動報告

昭和59年度蔵前テニスクラブ総会の報告

昭和59年度総会が、クラブ規約に従い、下記の通り開催されました。当クラブ再発足以来、2期4年の会長任期を満了された田治米会長が新会長として中島（敏）会員を推薦され、出席者一同から満場一致で承認されました。総会に引続き、現役も含めた懇親パーティーが開かれ、テニス談議あるいは思い出話に華をさかせ、なごやかなうちに閉会となりました。

記

1. 日時 昭和59年6月10日（日） P.M.5:30～7:30
場所 東京工業大学生協食堂
出席者 16名委任状88名の計104名
(全会員406名の1/5以上により総会成立)

2. 式次第

- 1) 開会宣言（許副会長）
- 2) 議事進行係指名（田治米会長から平井幹事指名）
- 3) 定足数確認（沢野幹事）
- 4) 幹事会活動報告（寺尾幹事）
- 5) 会計報告（増山幹事）
- 6) 会長挨拶（田治米会長）
- 7) 役員改選
- 8) 新会長挨拶（中島新会長）
- 9) 部長挨拶（内藤部長）
- 10) 現役前・新主将挨拶（牛木前主将・中井新主将）
- 11) 59年度行事予定報告（鶴田幹事）
- 12) クラブ規約における会長任期の確認
- 13) 閉会宣言（久保副会長）

3. 役員改選結果

会長	中島 敏（昭10）		
副会長	許 敏 信（昭19）再任	久保 康 夫（昭22）再任	
幹事	長久保 大 司（昭27）	大野 健（昭31）	
	伴野 松次郎（昭36）再任	杉 時 夫（昭36）再任	
	神武 昭彦（昭41）	村上 博（昭45）	

内山 隆(昭45)再任 桑原 宏幸(昭49)
 鶴田 邦雄(昭49) 小平 政宣(昭54)
 長谷川 隆(昭55)再任 金子 剛(昭58)再任
 嘉和知 秀俊(昭59)

年度委員

昭19年以前	許 敏 信	20~23年	久 保 康 夫	24~26年	泰 正 吾
27~28年	村 上 裕 輔	29年	仲 野 道 雄	30年	平 井 滿 夫
31年	鈴 木 伸 哉	32年	加 藤 進	33年	細 萱 武
34年	角 田 啓 二	35年	宮 崎 泰之資	36年	杉 時 夫
37年	榎 本 鎮 男	38年	門 倉 貞 夫	39年	奥 谷 紘 邦
40年	寺 尾 道 仁	41年	中 原 綱 光	42年	河 野 通 之
43年	石 原 宏	44年	宗 克 彦	45年	山 田 惠 一
46年	田 村 敏 昭	47年	中 井 保 夫	48年	富 田 保 雄
49年	福 与 寛	50年	土 屋 博 幸	51年	渋 谷 栄 一
52年	西 本 浩 之	53年	池 田 修	54年	小 平 政 宣
55年	大 橋 俊 也	56年	茶 谷 嘉 之	57年	湯 口 廉 一
58年	菅 谷 豊 明	59年	岡 本 肇		

(鶴田 邦雄 昭49・応物)

増員幹事(昭和60年4月付)

奥 野 敬(昭60) 布 施 隆 志(昭60)

昭和58年度蔵前テニスクラブ会計報告

昭和59年4月26日現在

。 収 入

前年度繰越金	468,651
年 会 費 (5,000×132名)	660,000
賛 助 金	40,000
銀 行 利 息	3,526
計	1,172,177

。 支 出

春季OB戦	91,640
秋季OB戦	21,384
会 誌 (印刷及郵送)	494,400
懇 親 会	45,860
連 絡 費	99,575
現 役 援 助 (定例+特別)	300,000
雑 費	3,070
計	1,055,929

。 翌年度繰越金

116,248

増山鉄男(昭43・応化)・布施隆志(58年度現役会計担当)

昭和59年度蕨前テニスクラブ会計報告

昭和60年4月2日現在

○ 収 入

前年度繰越金	116,248
年 会 費 (5,000×149名)	745,000
賛 助 金	57,000
懇 親 会	96,000
計	1,014,248

○ 支 出

春季OB戦	55,933
秋季OB戦	23,428
懇 親 会	149,295
連 絡 費	145,180
現役援助	200,000
雑 費	39,366
計	613,202

○ 翌年度繰越金 401,046

杉 時 夫 (昭36・機械)・曾 田 浩 之 (59年度現役会計担当)

蔵前テニスクラブ規約

第 1 条 (名 称)

本クラブは、蔵前テニスクラブ(以下クラブ)と称する。

第 2 条 (会 員)

会員は次に掲げる者とする。

1. 正会員：東京工業大学硬式庭球部出身者で、本クラブの主旨に賛同し、会員たる事を希望する者とする。
- ロ. 推薦会員：第4条の本クラブの目的に協力し、功績ある者で、本クラブ幹事会において選考の上、総会において承認された者をいう。
なお、入退会については自由意志とし、入退会希望者は、会長にその旨、報告するものとする。

第 3 条 (所 在)

本クラブの事務局は、東京工業大学硬式庭球部内に置く。

第 4 条 (目 的)

本クラブは会員相互の親睦を深めると同時に、東京工業大学硬式庭球部との連絡を密にし、これの発展・強化育成のための援助・指導に努めることを目的とする。

第 5 条 (組 織)

本クラブに次の機関を置く。

1. 総会：本クラブの最高議決機関とし、会長が招集し、会員すべてが参加する。原則として年1回開催し、会長が必要と認めた場合、臨時総会を開催することができる。
- ロ. 幹事会：総会につく議決機関とし、会長、副会長、幹事若干名で構成する。会長が必要と認めた場合、開催することができる。
なお、総会は1/5以上、幹事会は1/2以上の出席をもって成立し、議事は出席者の過半数をもって決定する。但し、委任状を出席数に加えることができる。

第 6 条 (役 員)

本クラブには、以下の役員を置く。

1. 会 長 1 名 本クラブを代表し会務を統括する。
- ロ. 副会長 2 名 会長を補佐し、会長に事故ある時は、これを代行する。

- ハ. 幹 事 10名程度 会務の運営にあたる。
ニ. 顧 問 若 千 名 会長、幹事からの相談に応ずる。
ホ. 年度委員 各年度1名 各卒業年度の会員への連絡業務にあたる。

第 7 条 (役員の選任)

会長、副会長は、総会において、会員の推薦により選任されるものとし、幹事、顧問の構成・任命は、会長に一任する。

また、年度委員は、各卒業年度会員の互選により、選任される。

第 8 条 (役員の任期)

第6条の任期は、2年とするが再任は妨げない。

但し、会長の任期は、連続して2期を越えないこととする。

第 9 条 (会 計)

本クラブの運営は会費、寄附、その他収入をもって行なう。

毎年5月を会計年度(5月1日～4月30日)とし、総会において会計報告を行なう。

第 10 条 (会 費)

会費は別に定める年会費を納入しなければならない。第9条にて定めた会計年度内の入退会者も、年会費を納入する。

但し、年会費の納入は、満60歳までの会員とする。

第 11 条 (除 名)

会員が本クラブの名誉を汚し、又は秩序を乱す行為があった場合は、除名することができる。

(附 則)

第 1 条 (年会費)

会員毎に年額5,000円とする。

以 上

内
大
木
山
神
吉
光
沢
光
西
伊
長
安
久
田
金

津
村
許
長
仲
平
吉
植
神
藤
天
沢
大
武
秀

昭和58・59年度OB戦出席者

昭和58年度春季OB戦出席者(45名)

内藤喜之(部長)	村松宏司(16)	許敏信(19副会長)
大塚寿次(20)	久保康夫(22副会長)	長久保大司(27)
木本宏(29)	仲野道雄(29)	平井満夫(30)
山内辰夫(33)	後藤需夫(35)	杉時夫(36)
神田哲郎(37)	柴田正明(38)	細野彰(38)
吉村洋(38)	寺尾道仁(40)	木下修介(41)
光増栄(41)	増山鉄男(43)	中村健(47)
沢野修(49)	天野文雄(50)	新居央行(50)
光田潔明(50)	宮崎真一(50)	和田信太郎(50)
西本浩之(52)	梨本泰信(53)	細井吉郎(53)
伊藤忠芳(54)	清水裕三(54)	大橋俊也(55)
長谷川隆(55)	鈴木康道(56)	高城東一(56)
安久井伸章(57)	桑島秀行(57)	高木達雄(57)
田中史明(57)	湯口廉一(57)	畔柳主税(58)
金子剛(58)	菅谷豊明(58)	藤掛高昭(58)

昭和58年度秋季OB戦出席者(54名)

津村利光(元会長)	内藤喜之(部長)	大田正樹(12)
村松宏司(16)	佐野治泰(17)	井本商三(19)
許敏信(19副会長)	大塚寿次(20)	久保康夫(22副会長)
長久保大司(27)	本間進(27)	木本宏(29)
仲野道雄(29)	藤田豊(29)	土谷耕介(30)
平井満夫(30)	大野健(31)	山内辰夫(33)
吉川栄治(36)	榎本鎮男(37)	吉村洋(38)
植田哲夫(40)	寺尾道仁(40)	木村俊宏(40)
神武昭彦(41)	増山鉄男(43)	内山隆(45)
藤田守弘(47)	沢野修(49)	鶴田邦雄(49)
天野文雄(50)	光田潔明(50)	宮崎真一(50)
渋谷栄一(51)	清水裕三(54)	松島晴彦(54)
大橋俊也(55)	長谷川隆(55)	高城東一(56)
武広裕次(56)	安久井伸章(57)	勝見朋芳(57)
桑島秀行(57)	高木達雄(57)	湯口廉一(57)

畔柳主税(58)	金子剛(58)	川田裕哉(58)
菅谷豊明(58)	谷沢悦子(58)	近森あきの(58)
千葉明(58)	原英明(58)	馬場照夫(58)

昭和59年度春季OB戦出席者(28名)

内藤喜之(部長)	村松宏司(16)	許敏信(19副会長)
久保康夫(22副会長)	平井満夫(30)	杉時夫(36)
柴宮智信(37)	寺尾道仁(40)	木村俊宏(40)
植田哲夫(40)	増山鉄男(43)	内山隆(45)
鶴田邦雄(49)	和田信太郎(50)	天野文雄(50)
宮崎真一(50)	新居央行(50)	細井吉郎(53)
大橋俊也(55)	長谷川隆(55)	豊福敏之(55)
小平政宣(56)	安久井伸章(57)	田中史明(57)
菅谷豊明(58)	千葉明(58)	高橋茂樹(59)
佐藤拓宋(S32・特別参加)		

昭和59年度秋季OB戦出席者(52名)

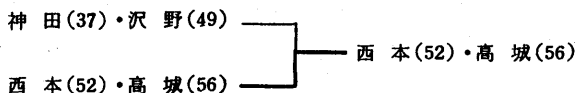
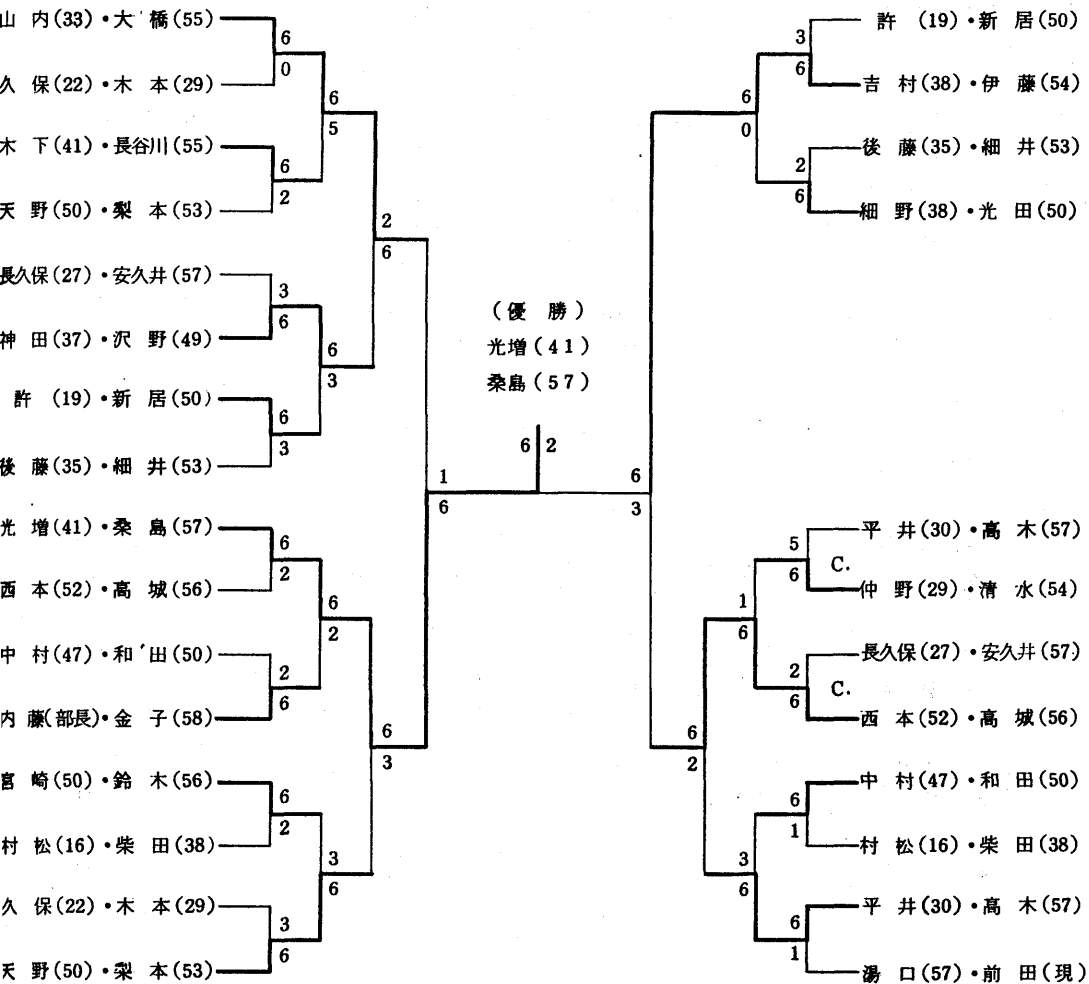
津村利光(元会長)	内藤喜之(部長)	中島敏(10会長)
大田正樹(12)	村松宏司(16)	許敏信(19副会長)
久保康夫(22副会長)	本間進(27)	長久保大司(27)
森辰夫(28)	木本宏(29)	藤田豊(29)
平井満夫(30)	後藤需夫(35)	杉時夫(36)
伴野松次郎(36)	榎本鎮男(37)	菅谷文雄(38)
木村俊宏(40)	寺尾道仁(40)	神武昭彦(41)
石原宏(43)	増山鉄男(43)	村上博(45)
沢野修(49)	桑原宏幸(49)	鶴田邦雄(49)
藤井隆司(49)	天野文雄(50)	宮崎真一(50)
坂本真一(51)	渋谷栄一(51)	細井吉郎(53)
清水裕三(54)	伊藤忠芳(54)	松島晴彦(54)
谷正之(55)	長谷川隆(55)	大橋俊也(55)
安久井伸章(57)	桑島秀行(57)	権田美晴(57)
高木達雄(57)	田中史明(57)	畔柳主税(58)
佐藤肇(58)	谷沢悦子(58)	近森あきの(58)
千葉明(58)	原秀明(58)	藤掛高昭(58)
高橋茂樹(59)		

昭和58・59年度OB戦結果

昭和58年度春季OB戦結果

(昭58・6・12)

[トーナメント]



[エギジビションマッチ]

- | | | | | | |
|-----------|-----|-----------|-----------|-----|-----------|
| ○ 久保(22) | 6-5 | (長久保(27) | 木本(29) | 0-6 | (内藤(部長) |
| ○ 後藤(35) | | 木下(41) | 細井(53) | | 柴田(38) ○ |
| 清水(54) | 1-6 | (宮崎(50) | 村松(16) | 4-6 | (大塚(20) |
| ○ 鈴木(56) | | 伊藤(54) ○ | ○ 細野(38) | | ○ 仲野(29) |
| 内藤(部長) | 4-3 | (村松(16) | 安久井(57) | 4-4 | (菅谷(58) |
| ○ 長久保(27) | | 寺尾(40) | 湯口(57) | | 渡辺(現) |
| 柴田(38) | 3-6 | (後藤(35) | 増山(43) | 4-6 | (長谷川(55) |
| ○ 増山(43) | | 寺尾(40) ○ | ○ 安久井(57) | | ○ 中井(現) |
| ○ 増山(43) | 6-4 | (一宮(現) | 大塚(20) | 2-6 | (牛木(現) |
| ○ 宮崎(50) | | 大竹(現) | ○ 仲野(29) | | ○ 布施(現) |

昭和58年度秋季OB戦結果

(昭58・11・23)

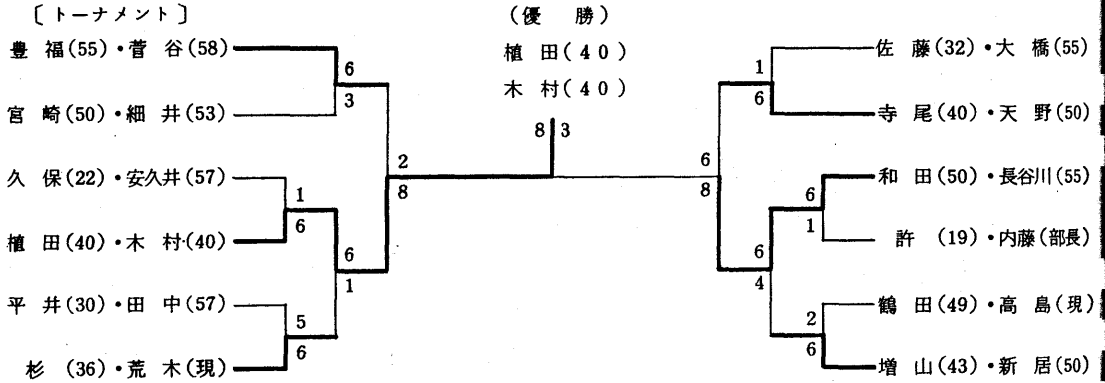
[エギジビションマッチ]

- | | | | | | |
|----------|-----|-----------|----------|-----|-----------|
| 長久保(27) | 5-6 | (久保(22) | 吉井(36) | 3-6 | (木村(40) |
| ○ 本間(27) | | ○ 大野(31) | ○ 榎本(37) | | ○ 寺尾(40) |
| 大田(12) | 2-6 | (藤田(47) | ○ 沢野(49) | 6-2 | (藤田(47) |
| ○ 千葉(58) | | ○ 安久井(57) | ○ 宮崎(50) | | ○ 渋谷(51) |
| ○ 大橋(55) | 6-4 | (清水(54) | 村松(16) | 4-6 | (井本(19) |
| ○ 高城(56) | | 馬場(58) | ○ 佐野(17) | | ○ 木本(29) |
| 藤田(29) | 3-6 | (山内(33) | 吉村(38) | 4-6 | (内藤(部長) |
| ○ 大野(31) | | ○ 平井(30) | ○ 植田(40) | | ○ 天野(50) |
| 光田(50) | 3-6 | (串間(現) | ○ 清水(54) | 6-1 | (沢野(49) |
| ○ 渋谷(51) | | ○ 布施(現) | ○ 高城(56) | | ○ 宮崎(50) |
| 榎本(37) | 5-6 | (植田(40) | ○ 松島(54) | 6-3 | (安久井(57) |
| ○ 吉村(38) | | ○ 寺尾(40) | ○ 近森(58) | | ○ 谷沢(58) |
| 村松(16) | 4-6 | (久保(22) | ○ 井本(19) | 6-1 | (佐野(17) |
| ○ 大田(12) | | ○ 本間(27) | ○ 大塚(20) | | ○ 長久保(27) |

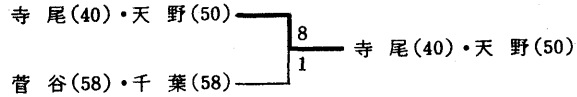
- | | | | | | |
|--------------------|-----|---------------------|--------------------|-----|---------------------|
| ○藤田(29)
吉川(36) | 6-2 | (大野(31)
山内(33)) | ○木村(40)
藤田(47) | 6-3 | (木本(29)
天野(50)) |
| ○大橋(55)
馬場(58) | 6-3 | (桑島(57)
鶴田(49)) | 平井(30)
内藤(部長) | 0-6 | (羽倉(現)
前田(現)) |
| ○植田(40)
寺尾(40) | 6-2 | (宮崎(50)
長谷川(55)) | 高木(57)
藤掛(58) | 3-6 | (畔柳(58)
菅谷(58)) |
| ○植田(40)
寺尾(40) | 6-4 | (吉村(38)
神武(41)) | ○井本(19)
許(19) | 6-2 | (佐野(17)
大塚(20)) |
| ○光田(50)
渋谷(51) | 6-2 | (荒木(現)
中井(現)) | 松島(54)
安久井(57) | 4-6 | (木本(29)
藤田(29)) |
| ○沢野(49)
宮崎(50) | 6-4 | (内山(45)
天野(50)) | 内藤(部長)
金子(58) | 5-6 | (馬場(58)
原(58)) |
| 清水(54)
大橋(55) | 4-6 | (高城(56)
桑島(57)) | ○長久保(27)
増山(43) | 6-2 | (平井(30)
一宮(現)) |
| ○藤田(29)
吉川(36) | 6-2 | (大野(31)
山内(33)) | ○井本(19)
許(19) | 6-0 | (大塚(20)
吉村(38)) |
| 村松(16)
近森(58) | 2-6 | (久保(22)
谷沢(58)) | 湯口(57)
千葉(58) | 3-6 | (沢野(49)
鶴田(49)) |
| ○神武(41)
増山(43) | 6-0 | (内山(45)
光田(50)) | 光田(50)
渋谷(51) | 1-6 | (鶴田(49)
天野(50)) |
| 久保(22)
長久保(27) | 2-6 | (松島(54)
金子(58)) | ○神武(41)
大橋(55) | 6-4 | (長谷川(55)
桑島(57)) |
| 木本(29)
馬場(58) | 2-6 | (大塚(20)
内藤(部長)) | 平井(30)
原(58) | 4-6 | (高城(56)
藤掛(58)) |
| 内山(45)
武広(56) | 4-6 | (増山(43)
勝見(57)) | 安久井(57)
湯口(57) | 1-6 | (高木(57)
菅谷(58)) |
| 松島(54)
谷沢(58) | 4-6 | (沢野(49)
近森(58)) | ○高城(56)
畔柳(58) | 6-5 | (鶴田(49)
金子(58)) |
| ○長久保(27)
平井(30) | 6-4 | (羽倉(現)
前田(現)) | 増山(43)
武広(56) | 4-6 | (牛木(現)
渡辺(現)) |

昭和59年度春季OB戦結果

(昭59・6・10)



3位決定戦



〔エキジビションマッチ〕

- | | | | | | |
|----------|-----|-----------|----------|-----|-----------|
| ○ 増山(43) | 6-2 | (中井(現)) | ○ 許(19) | 6-3 | (佐藤(32)) |
| ○ 鶴田(49) | | (前田(現)) | ○ 杉(36) | | (細内(現)) |
| 久保(22) | 4-6 | (原(現)) | ○ 平井(30) | 6-3 | (小沢(現)) |
| 安久井(57) | | (小山(現)) | ○ 天野(50) | | (堂園(現)) |
| 宮崎(50) | 4-6 | (佐藤(32)) | 鶴田(49) | 5-6 | (細井(53)) |
| 細井(53) | | (大橋(55)) | 宮崎(50) | | (小平(56)) |
| ○ 内藤(部長) | 6-1 | (天野(50)) | ○ 村松(16) | 6-5 | (大橋(55)) |
| ○ 寺尾(40) | | (菅谷(58)) | ○ 田中(57) | | (安久井(57)) |
| ○ 許(19) | 6-3 | (木村(40)) | 久保(22) | 0-6 | (内藤(部長)) |
| ○ 植田(40) | | (和田(50)) | 新居(50) | | (柴官(37)) |
| ○ 久保(22) | 6-4 | (細井(53)) | 鶴田(49) | 5-6 | (小平(56)) |
| ○ 宮崎(50) | | (豊福(55)) | 増山(43) | | (千葉(58)) |
| ○ 内藤(部長) | 6-0 | (平井(30)) | 許(19) | 2-6 | (杉(36)) |
| ○ 千葉(58) | | (長谷川(55)) | 田中(57) | | (宮崎(50)) |

村松(16) 寺尾(40)	3-6	(大橋(55) 羽倉(現))	柴宮(37) 増山(43)	6-3	(中井(現) 前田(現))
鶴田(49) 千葉(58)	6-3	(田中(57) 安久井(57))	杉(36) 小平(56)	6-3	(荒木(現) 羽倉(現))
村松(16) 植田(40)	2-6	(柴宮(37) 新居(50))	久保(22) 小平(56)	6-2	(内藤(部長) 安久井(57))

昭和59年度秋季OB戦結果

(昭59・11・23)

[エギジピションマッチ]

大田(12) 石原(43)	3-6	(長久保(27) 木本(29))	菅谷(38) 木村(40)	2-6	(後藤(35) 伴野(36))
大橋(55) 長谷川(55)	6-1	(安久井(57) 千葉(58))	高木(57) 田中(57)	7-6	(安久井(57) 千葉(58))
本間(27) 細井(53)	2-6	(藤田(29) 畔柳(58))	天野(50) 宮崎(50)	7-5	(村上(45) 伊藤(54))
谷(55) 桑島(57)	6-3	(大橋(55) 長谷川(55))	久保(22) 増山(43)	4-6	(平井(30) 坂本(51))
長久保(27) 石原(43)	6-7	(後藤(35) 木村(40))	寺尾(40) 沢野(49)	3-6	(内藤(部長) 桑島(57))
許(19) 谷沢(58)	6-0	(中島(10) 近森(58))	天野(50) 伊藤(54)	6-3	(細井(53) 畔柳(58))
増山(43) 村上(45)	4-6	(藤井(49) 宮崎(50))	許(19) 高木(57)	7-5	(久保(22) 沢野(49))
大田(12) 菅谷(38)	6-4	(木本(29) 伴野(36))	森(28) 高橋(59)	0-6	(坂本(51) 渋谷(51))
内藤(部長) 鶴田(49)	6-1	(寺尾(40) 松島(54))	神武(41) 近森(58)	6-4	(大田(12) 藤井(49))
中島(10) 田中(57)	5-6	(藤田(29) 谷(55))	藤田(29) 村上(45)	3-6	(後藤(35) 伴野(36))

○木本(29)	7-5	(谷沢(58)	畔柳(58)	4-6	(安久井(57)
○天野(50)		原(58)	千葉(58)		高木(57)○
○平井(30)	7-6	(村松(16)	村松(16)	3-6	(中島(10)
○桑島(57)		清水(54)	伊藤(54)		佐藤(35)○
○大橋(55)	6-3	(清水(54)	○長久保(27)	6-3	(森(28)
○谷(55)		長谷川(55)	○藤田(29)		平井(30)
○菅谷(38)	6-1	(松島(54)	伴野(36)	2-6	(寺尾(40)
○高橋(59)		藤掛(58)	榎本(37)		村上(45)○
石原(43)	4-6	(内藤(部長)	権田(57)	0-6	(杉(36)
○増山(43)		神武(41)○	近森(58)		谷沢(58)○
○坂本(51)	6-0	(桑原(49)	○千葉(58)	6-2	(佐藤(36)
○渋谷(51)		沢野(49)	○藤掛(58)		原(58)
○後藤(35)	6-3	(許(19)	沢野(49)	5-6	(坂本(51)
○菅谷(38)		細井(53)	藤井(49)		渋谷(51)○
高木(57)	3-6	(鶴田(49)	○安久井(57)	6-4	(松島(54)
○田中(57)		藤井(49)○	○田中(57)		高木(57)
権田(57)	4-6	(桑原(49)	大橋(55)	1-6	(伊藤(54)
○高橋(59)		原(58)○	○谷(55)		清水(54)○
○菅谷(38)	6-1	(千葉(58)	久保(22)	5-6	(長久保(27)
○田中(57)		藤掛(58)	榎本(37)		長谷川(55)○
寺尾(40)	5-6	(杉(36)			
○村上(45)		伴野(36)○			

春
的で
催し
後も

60

尚

り、
で使

昭和60年度蔵前テニスクラブ行事予定

春秋定期OB戦以外に会員の方々に御家族と共にテニスを楽しんで載く目的で、主に現役試験期間の母校コート空き日を利用して、親睦テニス会を開催しています。連絡不足のためかまだ参加会員は少ないのが現状ですが、今後も定例化していきたいと思っておりますので積極的に御参加下さい。

60年度行事予定

- 6 月 9 日 春季OB戦（予備日6月16日）
- 9 月中・下旬 新睦テニス会（日程が決まり次第連絡致します。）
- 11月 下旬 秋季OB戦
- 12月 中旬 OBと現役の対抗戦
- 61年1月4日 新年テスト会（毎年必ず行なっています。）
- 61年6月上旬 春季OB戦及び昭和61年度総会

尚、7月上旬、9月中・下旬、12月下旬及び2月上旬は現役合宿等により、コート空き日が出来ることがありますので、年度又は学部別等グループで使用希望の方は幹事の鶴田（昭49）に御連絡下さい。

（鶴田 邦雄 昭49・応物）

60年度年会費納入のお願い

蔵前テニスクラブは、去る昭和55年、有志の方々のご尽力により新組織を発足させ、それ以前停滞していたOB会の活動の活性化を計り、会誌の発行をはじめ、名簿の整理、郵送業務、OB戦の充実、現役の強化助成などの事業を推進してまいりました。いまだ充分とは言えないまでも、会員相互間、OBと現役間の連絡、親睦が非常に活発になりつつあることは、皆様のご理解ご協力によるものと深く感謝申し上げます。

このたび新組織の発足以来3回目の会誌をお届けすることができましたが、会誌発行にも相当の費用を要し、今後も永続的にOB会の活動を維持するためには、年会費による収入に頼らざるを得ないのが実情です。

つきましては、本年度の年会費5千円（満61才に達した会員は会則により納入義務を免除）を、下記の何れかの方法にてお納めいただきたく、お願い申し上げます。会計整理、報告の都合上、できるだけ7月上旬頃までにご送金下されば幸いです。

今後も会員各位よりご意見を賜り、事業、企画について検討を加え、会費の一層有効な活用に努力いたす所存です。

昭和60年6月9日

蔵前テニスクラブ会長 中 島 敏



現役活動報告

昭和58年度の戦績

関東大学リーグ戦 (昭59春)

第1戦 東京工業大学 × 2 ($\begin{smallmatrix} 0 & -3 \\ 2 & -4 \end{smallmatrix}$) 7 千葉商科大学

W 1. 後藤 串間 × ($\begin{smallmatrix} 1 & -6 \\ 6 & -2 \\ 2 & -6 \end{smallmatrix} $) 土屋 岩田	W 2. 牛木 一宮 × ($\begin{smallmatrix} 4 & -6 \\ 1 & -6 \end{smallmatrix} $) 馬場 薄衣	W 3. 布施 × ($\begin{smallmatrix} 2 & -6 \\ 6 & -7 \end{smallmatrix} $) 長嶋 牧野
S 1. 後藤 × ($\begin{smallmatrix} 2 & -6 \\ 0 & -6 \end{smallmatrix} $) 薄衣	S 2. 大竹 ○ ($\begin{smallmatrix} 6 & -4 \\ 6 & -4 \end{smallmatrix} $) 岩田	S 3. 布施 ○ ($\begin{smallmatrix} 7 & -5 \\ 6 & -3 \end{smallmatrix} $) 土屋
S 4. 牛木 × ($\begin{smallmatrix} 6 & -3 \\ 3 & -6 \\ 6 & -7 \end{smallmatrix} $) 馬場	S 5. 串間 × ($\begin{smallmatrix} 1 & -6 \\ 1 & -6 \end{smallmatrix} $) 牧野	S 6. 渡辺 × ($\begin{smallmatrix} 1 & -6 \\ 0 & -6 \end{smallmatrix} $) 長嶋

第2戦 東京工業大学 × 4 ($\begin{smallmatrix} 1 & -2 \\ 3 & -3 \end{smallmatrix}$) 5 神奈川大学

W 1. 後藤 串間 × ($\begin{smallmatrix} 3 & -6 \\ 6 & -7 \end{smallmatrix} $) 穂積 猪野	W 2. 布施 渡辺 ○ ($\begin{smallmatrix} 6 & -2 \\ 7 & -5 \end{smallmatrix} $) 秋本 塩原	W 3. 牛木 一宮 × ($\begin{smallmatrix} 0 & -6 \\ 2 & -6 \end{smallmatrix} $) 高橋 名執
S 1. 後藤 ○ ($\begin{smallmatrix} 7 & -6 \\ 3 & -6 \\ 6 & -4 \end{smallmatrix} $) 穂積	S 2. 布施 ○ ($\begin{smallmatrix} 6 & -1 \\ 6 & -2 \end{smallmatrix} $) 塩原	S 3. 大竹 × ($\begin{smallmatrix} 4 & -6 \\ 0 & -6 \end{smallmatrix} $) 名執
S 4. 串間 × ($\begin{smallmatrix} 3 & -6 \\ 5 & -7 \end{smallmatrix} $) 岩沙	S 5. 牛木 ○ ($\begin{smallmatrix} 6 & -2 \\ 6 & -1 \end{smallmatrix} $) 秋本	S 6. 渡辺 × ($\begin{smallmatrix} 2 & -6 \\ 2 & -6 \end{smallmatrix} $) 高橋

第3戦 東京工業大学 × 0 ($\begin{smallmatrix} 0 & -3 \\ 0 & -6 \end{smallmatrix}$) 9 群馬大学

W 1. 後藤 大竹 × ($\begin{smallmatrix} 0 & -6 \\ 0 & -6 \end{smallmatrix} $) 北 井田	W 2. 布施 渡辺 × ($\begin{smallmatrix} 3 & -6 \\ 3 & -6 \end{smallmatrix} $) 中村 下界	W 3. 牛木 串間 × ($\begin{smallmatrix} 0 & -6 \\ 6 & -2 \\ 2 & -6 \end{smallmatrix} $) 新保 高草木
S 1. 後藤 × ($\begin{smallmatrix} 0 & -6 \\ 2 & -6 \end{smallmatrix} $) 井田	W 2. 布施 × ($\begin{smallmatrix} 2 & -6 \\ 1 & -6 \end{smallmatrix} $) 中村	S 3. 中井 × ($\begin{smallmatrix} 2 & -6 \\ 4 & -6 \end{smallmatrix} $) 中村
S 4. 大竹 × ($\begin{smallmatrix} 1 & -6 \\ 0 & -6 \end{smallmatrix} $) 北爪	S 5. 牛木 × ($\begin{smallmatrix} 0 & -6 \\ 5 & -7 \end{smallmatrix} $) 下界	S 6. 渡辺 × ($\begin{smallmatrix} 2 & -6 \\ 2 & -6 \end{smallmatrix} $) 高草木

第4戦 東京工業大学 × 2 ($\begin{smallmatrix} 0 & -3 \\ 2 & -4 \end{smallmatrix}$) 7 東京農工大学

W 1. 中井 × ($\begin{smallmatrix} 0 & -6 \\ 0 & -6 \end{smallmatrix}$) 伊村 前田 成田	W 2. 牛木 × ($\begin{smallmatrix} 5 & -7 \\ 6 & -4 \\ 1 & -6 \end{smallmatrix}$) 道明 串間 上野	W 3. 布施 × ($\begin{smallmatrix} 2 & -6 \\ 0 & -6 \end{smallmatrix}$) 前田 渡辺 藤原
S 1. 後藤 × ($\begin{smallmatrix} 2 & -6 \\ 0 & -6 \end{smallmatrix}$) 伊村	S 2. 中井 × ($\begin{smallmatrix} 3 & -6 \\ 2 & -6 \end{smallmatrix}$) 成田	S 3. 大竹 × ($\begin{smallmatrix} 0 & -6 \\ 0 & -6 \end{smallmatrix}$) 前田
S 4. 牛木 ○ ($\begin{smallmatrix} 6 & -4 \\ 6 & -1 \end{smallmatrix}$) 上野	S 5. 布施 × ($\begin{smallmatrix} 1 & -6 \\ 6 & -4 \\ 5 & -7 \end{smallmatrix}$) 藤原	S 6. 渡辺 ○ ($\begin{smallmatrix} 3 & -6 \\ 6 & -1 \\ 6 & -4 \end{smallmatrix}$) 渡辺

第5戦 東京工業大学 × 1 ($\begin{smallmatrix} 1 & -2 \\ 0 & -6 \end{smallmatrix}$) 8 武蔵工業大学

W 1. 後藤 × ($\begin{smallmatrix} 0 & -6 \\ 2 & -6 \end{smallmatrix}$) 中村 中井 北村	W 2. 布施 ○ ($\begin{smallmatrix} 6 & -0 \\ 4 & -6 \\ 6 & -4 \end{smallmatrix}$) 井沢 渡辺 望月	W 3. 牛木 × ($\begin{smallmatrix} 3 & -6 \\ 2 & -6 \end{smallmatrix}$) 赤坂 串間 齊藤
S 1. 後藤 × ($\begin{smallmatrix} 4 & -6 \\ 3 & -6 \end{smallmatrix}$) 屋代	S 2. 大竹 × ($\begin{smallmatrix} 3 & -6 \\ 7 & -5 \\ 6 & -7 \end{smallmatrix}$) 望月	S 3. 布施 × ($\begin{smallmatrix} 3 & -6 \\ 3 & -6 \end{smallmatrix}$) 赤坂
S 4. 中井 × ($\begin{smallmatrix} 1 & -6 \\ 1 & -6 \end{smallmatrix}$) 浪貝	S 5. 牛木 × ($\begin{smallmatrix} 4 & -6 \\ 6 & -2 \\ 3 & -6 \end{smallmatrix}$) 北村	S 6. 渡辺 × ($\begin{smallmatrix} 7 & -6 \\ 4 & -6 \\ 2 & -6 \end{smallmatrix}$) 井沢
W 1. 布施 × ($\begin{smallmatrix} 2 & -6 \\ 0 & -6 \end{smallmatrix}$) 佐藤 渡辺 根本	W 2. 朱木 × ($\begin{smallmatrix} 2 & -6 \\ 1 & -6 \end{smallmatrix}$) 加藤 串間 長谷川	W 3. 一宮 × ($\begin{smallmatrix} 2 & -6 \\ 2 & -6 \end{smallmatrix}$) 村田 前田 吉田

入替戦 (6 - 7 部) 東京工業大学 × 0 ($\begin{smallmatrix} 0 & -3 \\ 0 & -6 \end{smallmatrix}$) 9 創価大学

S 1. 後藤 × ($\begin{smallmatrix} 0 & -6 \\ 4 & -6 \end{smallmatrix}$) 根本	S 2. 大竹 × ($\begin{smallmatrix} 2 & -6 \\ 6 & -4 \\ 2 & -6 \end{smallmatrix}$) 吉田	S 3. 布施 × ($\begin{smallmatrix} 7 & -6 \\ 4 & -6 \\ 4 & -6 \end{smallmatrix}$) 長谷川
S 4. 中井 × ($\begin{smallmatrix} 0 & -6 \\ 1 & -6 \end{smallmatrix}$) 村田	S 5. 牛木 × ($\begin{smallmatrix} 1 & -6 \\ 2 & -6 \end{smallmatrix}$) 佐藤	S 6. 渡辺 × ($\begin{smallmatrix} 0 & -6 \\ 0 & -6 \end{smallmatrix}$) 加藤

7部に陥落

理工系リーグ戦 (昭58.秋)

第1戦 東京工業大学 $\times 0 \left(\begin{smallmatrix} 0 & -3 \\ 0 & -6 \end{smallmatrix} \right) 9$ 東京農業大学

W 1.後藤 大竹 $\times \left(\begin{smallmatrix} 0 & -6 \\ 1 & -6 \end{smallmatrix} \right)$ 安藤 速藤	W 2.布施 串間 $\times \left(\begin{smallmatrix} 0 & -6 \\ 2 & -6 \end{smallmatrix} \right)$ 村田 川井	W 3.牛木 渡辺 $\times \left(\begin{smallmatrix} 5 & -7 \\ 1 & -6 \end{smallmatrix} \right)$ 石垣 佐々木
S 1.一宮 $\times \left(\begin{smallmatrix} 0 & -6 \\ 0 & -6 \end{smallmatrix} \right)$ 村田	S 2.小沢 $\times \left(\begin{smallmatrix} 4 & -6 \\ 0 & -6 \end{smallmatrix} \right)$ 速藤	S 3.布施 $\times \left(\begin{smallmatrix} 3 & -6 \\ 6 & -3 \\ 0 & -6 \end{smallmatrix} \right)$ 川井
S 4.中井 $\times \left(\begin{smallmatrix} 0 & -6 \\ 0 & -6 \end{smallmatrix} \right)$ 石垣	S 5.渡辺 $\times \left(\begin{smallmatrix} 0 & -6 \\ 0 & -6 \end{smallmatrix} \right)$ 安藤	S 6.牛木 $\times \left(\begin{smallmatrix} 5 & -7 \\ 0 & -6 \end{smallmatrix} \right)$ 鈴木

第2戦 東京工業大学 $\times 1 \left(\begin{smallmatrix} 0 & -3 \\ 1 & -5 \end{smallmatrix} \right) 8$ 東京理科大学

W 1.牛木 渡辺 $\times \left(\begin{smallmatrix} 0 & -6 \\ 1 & -6 \end{smallmatrix} \right)$ 荒井 橋田	W 2.後藤 中井 $\times \left(\begin{smallmatrix} 2 & -6 \\ 1 & -6 \end{smallmatrix} \right)$ 佐々木 滝沢	W 3.布施 串間 $\times \left(\begin{smallmatrix} 0 & -6 \\ 2 & -6 \end{smallmatrix} \right)$ 吉田 足立
S 1.布施 $\times \left(\begin{smallmatrix} 6 & -3 \\ 4 & -6 \\ 3 & -6 \end{smallmatrix} \right)$ 寺田	S 2.牛木 $\times \left(\begin{smallmatrix} 3 & -6 \\ 3 & -6 \end{smallmatrix} \right)$ 橋田	S 3.後藤 $\times \left(\begin{smallmatrix} 2 & -6 \\ 1 & -6 \end{smallmatrix} \right)$ 吉田
S 4.大竹 $\times \left(\begin{smallmatrix} 0 & -6 \\ 2 & -6 \end{smallmatrix} \right)$ 荒井	S 5.高田 $\circ \left(\begin{smallmatrix} 8 & -6 \\ 6 & -2 \end{smallmatrix} \right)$ 富永	S 6.渡辺 $\times \left(\begin{smallmatrix} 3 & -6 \\ 0 & -6 \end{smallmatrix} \right)$ 足立

第3戦 東京工業大学 $\times 2 \left(\begin{smallmatrix} 0 & -3 \\ 2 & -4 \end{smallmatrix} \right) 7$ 武蔵工業大学

W 1.後藤 中井 $\times \left(\begin{smallmatrix} 3 & -6 \\ 0 & -6 \end{smallmatrix} \right)$ 中村 斉藤	W 2.布施 串間 $\times \left(\begin{smallmatrix} 2 & -6 \\ 2 & -6 \end{smallmatrix} \right)$ 北村 篠原	W 3.牛木 渡辺 $\times \left(\begin{smallmatrix} 2 & -6 \\ 3 & -6 \end{smallmatrix} \right)$ 浪貝 望月
S 1.布施 $\circ \left(\begin{smallmatrix} 6 & -3 \\ 6 & -2 \end{smallmatrix} \right)$ 浪貝	S 2.後藤 $\times \left(\begin{smallmatrix} 2 & -6 \\ 5 & -7 \end{smallmatrix} \right)$ 井沢	S 3.牛木 $\circ \left(\begin{smallmatrix} 5 & -7 \\ 6 & -1 \\ 10 & -8 \end{smallmatrix} \right)$ 斉藤
S 4.大竹 $\times \left(\begin{smallmatrix} 6 & -2 \\ 1 & -6 \\ 6 & -8 \end{smallmatrix} \right)$ 望月	S 5.串間 $\times \left(\begin{smallmatrix} 0 & -6 \\ 0 & -6 \end{smallmatrix} \right)$ 中村	S 6.渡辺 $\times \left(\begin{smallmatrix} 1 & -6 \\ 2 & -6 \end{smallmatrix} \right)$ 北村

入替戦(1-2部) 東京工業大学 × 1 ($\begin{smallmatrix} 0 & -3 \\ 1 & -5 \end{smallmatrix}$) 8 早稲田大学理工学部

W 1.高田 × ($\begin{smallmatrix} 3 & -6 \\ \text{大津} & \text{山崎}) 柴田
 W 2.牛木 × () 山田
 W 3.布施 × ($\begin{smallmatrix} 1 & -6 \\ \text{串間} & \text{上原}) 串間 長沢$$

S 1.布施 × ($\begin{smallmatrix} 1 & -6 \\ 4 & -6 \end{smallmatrix}$) 柴田
 S 2.野間 × ($\begin{smallmatrix} 7 & -5 \\ 3 & -6 \\ 6 & -8 \end{smallmatrix}$) 小西
 S 3.牛木 × ($\begin{smallmatrix} 3 & -6 \\ 3 & -6 \end{smallmatrix}$) 長沢

S 4.串間 × ($\begin{smallmatrix} 0 & -6 \\ 0 & -6 \end{smallmatrix}$) 山崎
 S 5.渡辺 × ($\begin{smallmatrix} 0 & -6 \\ 2 & -6 \end{smallmatrix}$) 上原
 S 6.高田 ○ ($\begin{smallmatrix} 6 & -4 \\ 6 & -4 \end{smallmatrix}$) 山田

三工大戦(昭58.夏)

第1戦 東京工業大学 × 0 ($\begin{smallmatrix} 0 & -3 \\ 0 & -6 \end{smallmatrix}$) 9 名古屋工業大学

W 1.牛木 × ($\begin{smallmatrix} 2 & -6 \\ \text{渡辺} & \text{福島}) 水谷
 W 2.布施 × ($\begin{smallmatrix} 1 & -6 \\ \text{一宮} & \text{榑田}) 川島
 W 3.後藤 × () 中井$$

S 1.牛木 × ($\begin{smallmatrix} 3 & -6 \\ 2 & -6 \end{smallmatrix}$) 水谷
 S 2.渡辺 × ()
 S 3.布施 × ($\begin{smallmatrix} 6 & -7 \\ 3 & -6 \end{smallmatrix}$) 榑田

S 4.一宮 × ()
 S 5.後藤 × ($\begin{smallmatrix} 5 & -7 \\ 2 & -6 \end{smallmatrix}$)
 S 6.中井 × ($\begin{smallmatrix} 1 & -6 \\ 0 & -6 \end{smallmatrix}$)

第2戦 東京工業大学 ○ 5 ($\begin{smallmatrix} 1 & -2 \\ 4 & -2 \end{smallmatrix}$) 4 京都工芸繊維大学

W 1.牛木 × ($\begin{smallmatrix} 4 & -6 \\ \text{渡辺} & \text{川崎}) 豆谷
 W 2.布施 × ($\begin{smallmatrix} 6 & -4 \\ 2 & -6 \\ 5 & -7 \end{smallmatrix}$) 塩崎
 W 3.後藤 ○ ($\begin{smallmatrix} 6 & -3 \\ \text{中井} & \text{佐々木}) 中井$$

S 1.牛木 ○ ($\begin{smallmatrix} 6 & -2 \\ 6 & -4 \end{smallmatrix}$) 豆谷
 S 2.渡辺 × () 塩崎
 S 3.布施 ○ ($\begin{smallmatrix} 6 & -4 \\ 6 & -4 \end{smallmatrix}$) 佐々木

S 5.一宮 × () 川崎
 S 5.後藤 ○ ($\begin{smallmatrix} 7 & -5 \\ 6 & -0 \end{smallmatrix}$)
 S 6.中井 ○ ($\begin{smallmatrix} 7 & -6 \\ 7 & -6 \end{smallmatrix}$)

昭和59年度の戦績

関東大学リーグ戦(昭60.春)

1次リーグ第1戦 東京工業大学 ○6 ($\frac{2-1}{4-2}$) 3 足利工業大学

W 1. 近藤 × ($\frac{6-7}{1-6}$) 亀井 松崎
 W 2. 前田 ○ ($\frac{6-0}{6-1}$) 野村 掛川
 W 3. 小沢 ○ ($\frac{6-3}{6-2}$) 堂園 松尾 渡辺

S 1. 前田 × ($\frac{6-2}{5-7}$) 松崎 4-6
 S 2. 近藤 × ($\frac{1-6}{1-6}$) 亀井
 S 3. 池上 ○ ($\frac{6-2}{6-2}$) 松尾

S 4. 羽倉 ○ ($\frac{6-3}{6-3}$) 野村
 S 5. 中井 ○ ($\frac{6-1}{6-1}$) 掛川
 S 6. 曾田 ○ ($\frac{6-0}{6-0}$) 渡辺

1次リーグ第2戦 東京工業大学 ○9 ($\frac{3-0}{6-0}$) ○ 埼玉工業大学

W 1. 前田 ○ ($\frac{6-2}{6-1}$) 堀田 石川
 W 2. 近藤 ○ ($\frac{6-2}{6-2}$) 高島 富積 津島
 W 3. 小沢 ○ ($\frac{6-0}{6-0}$) 堂園 千田 入江

S 1~6 ○ (ALL DEF)

1次リーグ第3戦 東京工業大学 ○5 ($\frac{1-2}{4-2}$) 4 鶴見大学

W 1. 荒木 × ($\frac{5-7}{1-6}$) 吉成 田
 W 2. 近藤 × ($\frac{4-6}{2-6}$) 高島 武居 寒河江
 W 3. 前田 ○ ($\frac{6-2}{6-2}$) 池上 大石 岡田

S 1. 前田 × ($\frac{6-3}{2-6}$) 吉成 2-6
 S 2. 池上 ○ ($\frac{6-2}{6-7}$) 武居 6-0
 S 3. 近藤 × ($\frac{3-6}{4-6}$) 田

S 4. 中井 ○ ($\frac{7-5}{6-3}$) 寒河江
 S 5. 羽倉 ○ ($\frac{4-6}{6-3}$) 大石 6-1
 S 6. 曾田 ○ ($\frac{6-2}{6-1}$) 岡田

1次リーグ第4戦 東京工業大学 ○9 ($\frac{3-0}{6-0}$) 0 日本社会事業大学

W 1. 近藤 ○ ($\frac{6-0}{6-1}$) 高島 武内 高久
 W 2. 荒木 ○ ($\frac{6-0}{6-0}$) 羽倉 西谷 平野
 W 3. 前田 ○ ($\frac{6-0}{6-0}$) 池上 中村 後藤

S 1.近藤○($\frac{6}{6} - \frac{1}{0}$)武内 S 2.小沢○($\frac{6}{6} - \frac{1}{2}$)高久 S 3.池上○(d e f)西谷

S 4.羽倉○($\frac{6}{6} - \frac{1}{0}$)平野 S 5.荒木○($\frac{6}{6} - \frac{0}{-1}$)中村 S 6.曾田○($\frac{6}{6} - \frac{0}{-0}$)後藤

2次トーナメント第1戦 東京工業大学 × 0 ($\frac{0}{0} - \frac{3}{-6}$) 9 国土館大学

W 1.荒木
羽倉 × ($\frac{1}{2} - \frac{6}{-6}$) 前谷
細川 W 2.近藤
高島 × ($\frac{3}{4} - \frac{6}{-6}$) 岡田
西野 W 3.前田
池上 × ($\frac{2}{2} - \frac{6}{-6}$) 竹部
下村

S 1.前田 × ($\frac{6}{2} - \frac{7}{-6}$) 杉本 S 2.池上 × ($\frac{6}{4} - \frac{7}{-6}$) 細川 S 3.近藤 × ($\frac{0}{3} - \frac{6}{-6}$) 前谷

S 4.中井 × ($\frac{4}{1} - \frac{6}{-6}$) 竹部 S 5.羽倉 × ($\frac{1}{1} - \frac{6}{-6}$) 岡田 S 6.曾田 × ($\frac{2}{0} - \frac{6}{-6}$) 下村

理工系リーグ戦(昭59.秋)

第1戦 東京工業大学 × 0 ($\frac{0}{0} - \frac{3}{-6}$) 9 東海大学工学部

W 1.原
細内 × ($\frac{0}{1} - \frac{6}{-6}$) 飯田
須田 W 2.中井
前田 × ($\frac{4}{1} - \frac{6}{-6}$) 大沢
竹内 W 3.小沢
池上 × ($\frac{6}{2} - \frac{3}{-6}$) 田内
小山

S 1.高島 × ($\frac{0}{1} - \frac{6}{-6}$) 飯田 S 2.原 × ($\frac{0}{2} - \frac{6}{-6}$) 大沢 S 3.前田 × ($\frac{1}{1} - \frac{6}{-6}$) 竹内

S 4.池上 × ($\frac{2}{4} - \frac{6}{-6}$) 壺阪 S 5.中井 × ($\frac{2}{2} - \frac{6}{-6}$) 小山 S 6.小沢 × ($\frac{1}{1} - \frac{6}{-6}$) 田内

第2戦 東京工業大学 × 3 ($\frac{0}{3} - \frac{3}{-3}$) 6 慶応義塾大学理工学部

W 1.荒木
羽倉 × ($\frac{2}{0} - \frac{6}{-6}$) 秋本
梶原 W 2.中井
前田 × ($\frac{2}{0} - \frac{6}{-6}$) 松井
山口 W 3.小沢
池上 × ($\frac{3}{3} - \frac{6}{-6}$) 椎名
小池

S 1.羽倉 × ($\frac{3}{1} - \frac{6}{-6}$) 小池 S 2.前田 × ($\frac{2}{1} - \frac{6}{-6}$) 秋本 S 3.中井○($\frac{3}{8} - \frac{6}{-6}$) 山口
6-2

S 4.池上○($\frac{6-4}{6-3}$) 大津

S 5.牛木○($\frac{6-2}{6-0}$) 栗原

S 6.小沢×($\frac{0-6}{0-6}$) 椎名

第3戦 東京工業大学 × 1 ($\frac{0-3}{1-5}$) 8

玉川大学工学部

W 1.原池上×($\frac{3-6}{1-6}$) 松岡 齊藤(-)

W 2.荒木羽倉×($\frac{0-6}{3-6}$) 加藤 村上

W 3.中井前田×($\frac{3-6}{2-6}$) 前田 山口

S 1.曾田×($\frac{1-6}{3-6}$) 松岡

S 2.羽倉×($\frac{1-6}{1-6}$) 加藤

S 3.前田×($\frac{3-6}{6-3}$) 村上
2-6

S 4.中井×($\frac{1-6}{3-6}$) 前田

S 5.池上○($\frac{5-7}{6-0}$) 山口
6-1

S 6.牛木×($\frac{5-7}{6-8}$) 齊藤(-)

入替戦(2~3部) 東京工業大学 × 4 ($\frac{1-2}{3-3}$) 5

東京農工大学

W 1.原池上×($\frac{4-6}{1-6}$) 成田 前田

W 2.中井前田○($\frac{6-3}{2-6}$) 上野 渡辺
7-5

W 3.牛木串間×($\frac{4-6}{0-6}$) 伊村 内山

S 1.羽倉×($\frac{0-6}{1-6}$) 伊村

S 2.前田×($\frac{2-6}{1-6}$) 前田

S 3.池上○(d e f) 上野

S 4.中井○($\frac{1-6}{3-4}$) 渡辺
r e t

S 5.小沢×($\frac{6-4}{1-6}$) 内山
3-6

S 6.牛木○($\frac{8-10}{4-4}$) 成田
r e t

三工大戦(昭59.夏)

第1戦 東京工業大学Aチーム × 1 ($\frac{0-3}{1-5}$) 8

名古屋工業大学Aチーム

W 1.小沢池上×($\frac{4-6}{2-6}$) 福島 諸戸

W 2.中井前田×($\frac{2-6}{2-6}$) 岩崎 神藤

W 3.荒木羽倉×($\frac{2-6}{1-6}$) 川島 榎田

S 1.小沢 × ($\frac{3}{2} - \frac{6}{6}$) 福島 S 2.中井 × ($\frac{2}{1} - \frac{6}{6}$) 諸戸 S 3.羽倉 × ($\frac{4}{0} - \frac{6}{6}$) 川島

S 4.池上 ○ ($\frac{6}{6} - \frac{1}{3}$) 榊田 S 5.前田 × ($\frac{0}{3} - \frac{6}{6}$) 岩崎 S 6.荒木 × ($\frac{2}{3} - \frac{6}{6}$) 神藤

東京工業大学Bチーム × 1 ($\frac{0}{1} - \frac{3}{5}$) 8 名古屋工業大学Bチーム

W 1. 原 × ($\frac{1}{2} - \frac{6}{6}$) 白石
細田 × ($\frac{1}{2} - \frac{6}{6}$) 北岡 W 2. 小山 × ($\frac{1}{3} - \frac{6}{6}$) 渡辺
堂園 × ($\frac{1}{3} - \frac{6}{6}$) 安井 W 3. 近藤 × ($\frac{3}{6} - \frac{6}{7}$) 内藤
高島 × ($\frac{3}{6} - \frac{6}{7}$) 速藤

S 1.曾田 × ($\frac{4}{3} - \frac{6}{6}$) 北岡 S 2.原 × ($\frac{1}{6} - \frac{6}{7}$) 渡辺 S 3.小山 × ($\frac{1}{5} - \frac{6}{7}$) 白石

S 4.近藤 ○ ($\frac{1}{6} - \frac{6}{3}$) 得平 S 5.高島 × ($\frac{6}{4} - \frac{6}{6}$) 内藤
 $\frac{6}{6} - \frac{3}{3}$ S 6.谷口 × ($\frac{2}{1} - \frac{6}{6}$) 安井

第2戦 東京工業大学Aチーム × 4 ($\frac{1}{3} - \frac{2}{3}$) 5 京都工芸繊維大学Aチーム

W 1. 小沢 × ($\frac{4}{6} - \frac{6}{0}$) 佐々木
池上 × ($\frac{4}{2} - \frac{6}{6}$) 川崎 W 2. 中井 ○ ($\frac{6}{6} - \frac{3}{3}$) 小西
前田 ○ ($\frac{6}{6} - \frac{3}{3}$) 小森 W 3. 荒木 × ($\frac{3}{6} - \frac{6}{1}$) 芳野
羽倉 × ($\frac{3}{2} - \frac{6}{6}$) 井本

S 1.小沢 × ($\frac{2}{0} - \frac{6}{6}$) 佐々木 S 2.中井 ○ ($\frac{2}{6} - \frac{6}{3}$) 小西
 $\frac{6}{6} - \frac{3}{2}$ S 3.羽倉 × ($\frac{1}{2} - \frac{6}{6}$) 小森

S 4.池上 ○ ($\frac{6}{6} - \frac{2}{1}$) 川崎 S 5.前田 ○ ($\frac{6}{6} - \frac{3}{0}$) 芳野 S 6.荒木 × ($\frac{4}{2} - \frac{6}{6}$) 井本

東京工業大学Bチーム ○ 8 ($\frac{3}{5} - \frac{0}{1}$) 1 京都工芸繊維大学Bチーム

W 1. 原 ○ ($\frac{6}{6} - \frac{3}{2}$) 中野
細内 ○ ($\frac{6}{6} - \frac{3}{2}$) 川本 W 2. 小山 ○ ($\frac{6}{6} - \frac{2}{4}$) 坂井田
堂園 ○ ($\frac{6}{6} - \frac{2}{4}$) 塩野 W 3. 近藤 ○ ($\frac{6}{6} - \frac{0}{3}$) 中富
高島 ○ ($\frac{6}{6} - \frac{0}{3}$) 末村

S 1.曾田 × ($\frac{2}{0} - \frac{6}{6}$) 川本 S 2. 原 ○ ($\frac{6}{6} - \frac{1}{2}$) 中野 S 3.小山 ○ ($\frac{6}{6} - \frac{1}{1}$) 坂井田

S 4.渡辺 ○ ($\frac{5}{6} - \frac{7}{4}$) 末村 S 5.平沢 ○ ($\frac{6}{6} - \frac{3}{1}$) 中富
 $\frac{6}{6} - \frac{4}{0}$ S 6.堂園 ○ ($\frac{6}{6} - \frac{3}{2}$) 塩野

昭和58年度のリーグ戦を振り返って

58年度主将 牛木純郎(4年 情工)

我々の代は、秋の理工系、春の関東を通じて一勝もできずに下部に降格した。オープン戦を戦っても相手校の同順位の選手との対戦では分が悪かったが、やはりそれがそのまま出た結果であろう。特にダブルスは無惨な戦績であり、ほんの数える程しか白星がなかった。現役の時分、テニスは、技術、体力、知力、心の四つの要素で勝負するものだと考えていた。シングルスでは、ある程度の技術とそれに見合った体力があれば、頭を使うことと精神集中で勝負することができるので、私は、その時点での技術で相手を負かすには、ということだけ考えていた。ところがダブルスでは、技術の差はかなり決定的な要素だ。しかも二人でプレーするために、突発的な事態に対する対応もシングルス程スムーズにはいかない。つまり私は、どうすれば勝てるかを考えていたのではなく、シングルの戦法を考えていただけだったようだ。

主将がそんな調子であったからポイントを挙げられないのも当然であったろう。ダブルスでポイントできないのは、ダブルスが弱いのではなく、技術が低いことの証拠だったのだ。

具体的にリーグ戦を振り返って見ると、まず第一戦、対千葉商大戦。ここは層は厚かったが、そうずば抜けた選手はなく、苦戦は必至ではあるが、上位ランクの選手が全て勝てば勝てる可能性もあった。しかしやはりダブルスでたたかれ、シングルスも実力1、2、3で1勝しかできない有様で敗れた。二戦目は対神奈川大戦。ここには強い選手が二人いてこの二人がダブルスも組んでいるので残り6ポイントは十分可能性があった。ダブルスで2本入れたかったが1本しか入らず、シングルの相手の弱い所は全部取らねばならなくなったが一本落としてしまい4-5で敗れた。

三戦目の対群馬大戦は、技術の違いがまざまざと出て0-9と完敗。四戦目の対農工大戦を迎えた。ここにも二人強い選手がいて、この二人がダブルスでは分れているので、残る5ポイントは非常に重要だった。しかし最重要のダブルスで0-3となりシングルでも取りこぼしが出て結果は大差だった。第五戦の

武工大戦も勝負にならなかった。入替戦は7部1位の創価大と対戦したが0-9で大敗、7部降格となった。全体を通じて現在冷静な目で見ると、勝負になるポイントのほとんどを取れば、という条件付きではあるが、勝てるかもしれない試合が二、三ある。本当ならその試合だけにしぼって、もっと突込んで考えて試合に望まなければいけなかったのであろう。

とは言っても、本当に反省すべき点は、部を引き継いだ時に、勝負だけにこだわっていた自分の心だろう。主将という立場でありながら、自分の勝敗しか結局は考えていなかったのではないか、と悔いているのである。

昭和59年度のリーグ戦を振りかえって

59年度主将 中井 暁夫

今年のリーグ戦は、「鶴見大戦」と「国土館大戦」という対照的な2試合に象徴されるだろう。

現在七部においては6校ずつに依る一次リーグ戦において一位になった大学同士で二次トーナメントを行うという形がとられている。

一次リーグは対戦相手に恵まれ順調に勝ち進んだ我々は、最大のヤマ場、鶴見大との最終戦を迎えた。鶴見大のデータは全く無いに等しかったが、偵察に行った者の話では実力は我々と五分、№1. №2. №3. は仲々強そうだという話である。しかし幸いな事に鶴見大は伝統的にオーダーを動かさず実力順に出してくるといのが大きな救いであった。

さて試合当日、体格のガッチリした鶴見大の選手の我々よりはるかに重そうに豪快なストロークと華麗なボレーを見て撲は心中隠やかではなかった。ダブルスは№1の荒木・羽倉、№2の近藤・高島もよく健闘したものの結局№3の前田・池上の1ポイントしかとれず逆転を期してシングルスに望むこととなった。

シングルスは№6. №5. №4. №2. をなんとしても取らなければならず、特に№5の羽倉が大きな勝負であった。№6の曾田は楽勝し、№4の僕も苦しみながらもなんとか勝ち、いよいよ勝負は№5の羽倉の試合へとかかって来た。

「これさえ勝てば」という思いから応援にも熱が入ったが、願いも空しく羽倉が第一セットを失ったときはおそらく誰もが万事休すか、と思った事でしょう。しかしここから、プレッシャーに弱い羽倉が超人的な粘りを発揮し始めた。セカンドを0～3の劣勢から挽回してとった時は応援も最高潮に達し、正に一球一球手の平を握りしめるという感じであった。ファイナルセットは相手が羽倉の気迫と応援に押しきられたという感じで6-1でものにした。№2の池上もファイナルまでもつれたものの勝ち、ポイント5-4で東工大の勝ちが決定し一次リーグ突破を果たした。寒い一日で応援もふるぶるとふるえながらであったが、久しぶりにこれぞリーグ戦という感じで、選手も応援も一体になって盛り上がり、部員一人一人の心は熱かっただろうと思う。

特に3年生は入部してから関東学生リーグでは一勝もしていなかっただけにその喜びはひとしおだった。

しかしこの喜びもつかの間、二次トーナメント1回戦国士館大戦はあっという間の敗戦であった。慣れないハードコートのせいもあり、特にリターンがかえず、又決定力の差があまりにも大きすぎた。今後にはたくさんの課題を残す結果となってしまったのは残念である。

リーグ戦を終えて感じたのは、二次トーナメントを勝ち抜くのは仲々大変だということだ。

技術的な面では特に、ボレーを基本からやり直す事が必要だろう。しかし個性豊かで熱心な(?)新三年生ならきっとやってくれるでしょう。強く明るい硬式庭球部を目指し頑張ってください。期待しています。

新年度に向けて

主将 小沢 浩一（3年 理・化）

私はこの4月から、新主将として部活動の先頭に立つ立場になりましたが、人をまとめることの難しさを初めて体験しています。私自身としては、率先して練習や試合に全力を尽し、皆に信頼されることによって部をまとめてゆく積りです。

入部以来2年間、多くの対抗試合を観ていて感じたことは、3つのダブルスのうち1勝さえすれば、劣勢でも試合をあきらめずに全部員が一致して頑張るということです。そこで、今年は、それを一歩進めて、ダブルスは最低でも2勝はすること（オープン戦では3勝）を目標にしようと思います。

そのために、練習はダブルスの強化に重点を置きます。今までは、ネットについても相手のミスを待っていたように思います。このことを反省し、日常の練習ではネットプレーに多くの時間をさき、粘り強い上に積極的にエースを取れる力をつけるように心掛けていく積りです。

幸い、今年は部員が粒揃いでしかも練習熱心なので密度の濃い練習とチームワークで実現できると思っています。

諸先輩の御指導を、お願いいたします。

60年度活動計画

主務 細内正紀(3年 建築)

5月12日(日)	国公立戦1回戦	対商船大
5月19日(日)	国公立戦2回戦	対東大
6月1日(土)	新歓コンパ	
6月9日(日)	OB戦(16日、予備日)	
7月16日(火)		
)	夏1次合宿	軽井沢にて
7月25日(木)		
7月下旬、8月上旬	理工系、夏関個人戦	
8月16日(金)		
)	夏2次合宿	山中湖にて
8月21日(水)		
8月23日(金)		
)	強化練習	
8月27日(火)		
8月29日(木)		
)	三工大戦	東工大にて
8月31日(土)		
10月 中旬		
)	理工系リーグ戦	対法政大、成蹊大、東洋大なら
	びに秋関個人戦	
10月 下旬		
11月 中旬		
)	関東大学テニスリーグオープン戦	
11月 下旬		
12月 上旬	理工系新進戦	
12月 下旬	強化練習	

1月 中旬

{

関東大学テニスリーグオープン戦

1月 下旬

2月 下旬

{

春合宿 館山にて

3月 上旬

3月 中旬

{

関東大学テニスリーグ

4月 上旬

なお、水曜、土曜は午後半日、日曜、祭日は終日練習。

編 集 後 記

- ＊ 昭和59年5月より中島新会長のもとに、幹事が再編成されました。蔵前テニスクラブの発展のため今後も皆様の強力な御支援をお願い致します。
- ＊ 田治米前会長が逝去されました。早く治られることをお祈りしていましたが残念なことです。蔵前テニスクラブへの御尽力に心から感謝しつつ、ご冥福をお祈り致します。
- ＊ 久保副会長と山形高校の同窓で、現在京大の庭球部長をしておられる伊藤先生から医学的に見た中高年のテニスの心得について貴重な御寄稿をいただき感謝致しております。慶応病院の内科で活躍中の村上氏(昭45)の力作文と併せてお読みいただくと、会員諸兄のテニスによる故障が減るのではないのでしょうか。
- ＊ 会員便りは毎回好評を得ております。本号では担当者の不手際のため既刊号よりもその数が減りましたことをお詫び致しますと共に、今後も気軽に便りをお送り下さるようお願い致します。
- ＊ 現役が昨年関東大学リーグ戦の7部に落ちて以来苦戦を続けています。近頃は部員獲得の苦勞も多いようです。平井前幹事(昭30)の原稿にも書かれていますように、OB会として現役に対する強力なバックアップが必要なときのように思われます。
- ＊ 本号の発刊に当り、原稿を心よくお引受けいただきました執筆者の皆様へ心より御礼申し上げます。なお、次号に向けて、内容等についての御意見があれば、会誌担当の幹事まで御連絡下さい。

会 誌 担 当 幹 事

伴 野 松次郎(昭 36)
神 武 昭 彦(昭 41)
桑 原 宏 幸(昭 49)
嘉和知 秀 俊(昭 59)

蔵前テニスクラブ(第19号) 限定 500部 非売品

昭和60年6月9日発行

編集・発行 蔵前テニスクラブ

代表者 中 島 敏

印 刷 睦美マイクロ(株)東京支店

TEL(03)649-3467